

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡

葛城一体型特定土地地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書 V

平成 14 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

にし ひら つか なし の き
西平塚梨ノ木遺跡

葛城一体型特定土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書 V

平成 14 年 3 月

都市基盤整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい街づくりを推進しております。平成11年度はその一つとして、海外との交流の場である国際会議場「エポカルつくば」を整備いたしました。また、新しい街づくりの一環として平成17年開通を目指して建設が進められているつくばエクスプレスは、都心部とつくば市を結ぶ動脈として、地域の活性化を進める役割が期待されております。

都市基盤整備公団茨城地域支社では、研究学園都市としてのつくば市の特性と地理的条件を勘案し、新たな交通網を備えた都市機能の充実と、良好な居住環境を持つ宅地の供給を目的として土地区画整理事業を進めております。

茨城県教育財団は、都市基盤整備公団茨城地域支社からつくばエクスプレス沿線地域にあたる葛城地区の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け、平成7年から発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成13年6月から同年11月まで行った西平塚梨ノ木遺跡の調査の成果を取めたものであります。本書が、研究資料としてはもとより、郷土の歴史への理解を深めると共に、教育・文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である都市基盤整備公団から賜りました多大なる御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに衷心より感謝の意を表します。

平成14年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 齋藤佳郎

例 言

- 1 本書は、都市基盤整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成13年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市大字西平塚字梨ノ木341-3ほかに所在する西平塚梨ノ木遺跡（西平塚梨ノ木遺跡）の発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡の発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調 査 平成13年6月1日～平成13年11月30日
整 理 平成13年12月1日～平成14年3月29日
- 3 当遺跡の発掘調査は、調査第二課長鈴木美治の指揮のもと、調査第二課第1班長萩野谷悟、主任調査員高野節夫が平成13年6月から11月、主任調査員川上直登が平成13年6月から8月、主任調査員横倉要次が平成13年9月から11月、囑託鹿島直樹が平成13年10月から11月までそれぞれ担当した。
- 4 当遺跡の整理及び本書の執筆・編集は、整理第二課長瓦吹堅、調査第二課第1班長萩野谷悟の指揮のもと、主任調査員高野節夫が担当した。
- 5 発掘調査及び整理に際し、御指導・御協力を賜った関係機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

凡 例

1 当遺跡の発掘調査は、日本平面直角座標第Ⅺ系座標に拠り、X軸=+11,000m、Y軸=+22,800mの交点を基準点(A 1a1)とした。




調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」「B 2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0とし、名称は大調査区の名称を冠し、「A 1a1区」、「B 2b2区」のように呼称した。

2 遺跡・遺物・土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-S I 土坑-S K 溝-S D
遺物 土器・陶器-P 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品・古銭-M
拓本記録土器-T P
土層 攪乱-K

3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

 黒色処理  焼土・油煙・煤  施軸
● 土器・陶器 ■ 石器・石製品 ▲ 金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定には、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は500分の1、遺構は60分の1に縮尺して掲載することを原則とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

6 「主軸」は、長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長径方向」は主軸・長径が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例N-10°-E)。

7 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。

(1) 土器の計測値の単位はcmである。

(2) 備考の欄は、土器の現存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号については、土器、拓本のみ掲載の土器片、土製品、石製品、金属製品ごとに通し番号とし、挿図、観察表、写真図版に記した番号は同一とした。

8 遺構一覧表・遺物観察表等における計測値のうち、現存値は()、推定値は[]を付して示した。

抄 録

ふりがな	にしひらつかなしのきいせき							
書名	西平塚梨ノ木遺跡							
副書名	葛城一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V							
巻次								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告							
シリーズ番号	第196集							
著者名	高野節夫							
編集機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行機関	財団法人 茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2002(平成14)年3月25日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村番号						
西平塚梨ノ木遺跡	茨城県つくば市大字西平塚字梨ノ木341-3	08220 560	36度 5分 20秒	140度 5分 33秒	24~25m	20010601 ~ 20011130	31,396m ²	葛城一体型特定土地地区画整理事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
西平塚梨ノ木遺跡	集落跡	奈良	竪穴住居跡 1軒	土師器(甕), 須恵器(坏, 壺, 甕, 高坏, 鉢)			奈良時代の集落跡があったと考えられる。	
	墓地跡	中・近世	溝跡 5条 地下式墳 1基 井戸跡 3基 土坑墓 2基	石造物(五輪塔, 宝篋印塔), 板碑 金属製品(古銭, 鉄滓) 土師質土器(小皿), 陶器(平碗, 花瓶, 鉀皿, 縁軸小皿, 丸碗, 瓶)			また, 石造物(五輪塔, 宝篋印塔)が多量に出土していることから, 中世の墓域であったことが窺える。	
	その他	縄文 不 明	溝跡 16条 土坑 224基	縄文土器片(深鉢), 石鏃, 磨製石斧			1点ではあるが, 板碑が出土している。	

目 次

序	
例 言	
凡 例	
抄 録	
目 次	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の成果	6
第1節 遺跡の概要	6
第2節 基本層序	6
第3節 遺構と遺物	7
1 奈良時代の遺構と遺物	7
(1) 竪穴住居跡	7
2 その他の時代の遺構と遺物	10
(1) 溝 跡	10
(2) 地下式竈	16
(3) 井戸跡	17
(4) 土 坑	19
3 遺構外出土遺物	25
第4節 まとめ	39

写真図版

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図	4	第15図	第21号土坑・出土遺物実測図	19
第2図	基本土層図	6	第16図	第35号土坑・出土遺物実測図	20
第3図	第1号住居跡実測図	8	第17図	遺構外出土遺物実測図(1)	26
第4図	第1号住居跡・出土遺物実測図	9	第18図	遺構外出土遺物実測図(2)	27
第5図	第1号溝跡・出土遺物実測図	11	第19図	遺構外出土遺物実測図(3)	28
第6図	第2号溝跡実測図	12	第20図	遺構外出土遺物実測図(4)	29
第7図	第6号溝跡・出土遺物実測図	12	第21図	遺構外出土遺物実測図(5)	30
第8図	第13号溝跡・出土遺物実測図	13	第22図	遺構外出土遺物実測図(6)	31
第9図	第14号溝跡・出土遺物実測図	14	第23図	遺構外出土遺物実測図(7)	32
第10図	第15号溝跡・出土遺物実測図	15	第24図	遺構外出土遺物実測図(8)	33
第11図	第1号地下式塙実測図	17	第25図	遺構外出土遺物実測図(9)	34
第12図	第1号井戸跡実測図	17	第26図	遺構外出土遺物実測図(10)	35
第13図	第2号井戸跡実測図	18	第27図	遺構外出土遺物実測図(11)	36
第14図	第3号井戸跡実測図	18			

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5	第3表	井戸跡一覧表	19
第2表	溝跡一覧表	15	第4表	土坑一覧表	20

写 真 図 版

PL1	完掘状況(西から, 東から)	土坑集中区, 第7・8・9号溝跡完掘状況	
PL2	第1号住居跡完掘状況 第1号住居跡遺物出土状況 第1号住居跡竈遺物出土状況	PL6	立石(お羽黒様, 天神様)確認状況 五輪塔・宝篋印塔集積状況
PL3	第12・13・14号溝跡完掘状況 第8号溝跡遺物出土状況	PL7	第1号住居跡, 第6・15号溝跡, 遺構外出土遺物
PL4	第1号地下式塙完掘状況 第1・2号井戸跡完掘状況	PL8	第1号住居跡・遺構外出土遺物
PL5	第21号土坑遺物出土状況 第35号土坑完掘状況	PL9	第21号土坑・遺構外出土遺物
		PL10	第1号溝跡・第35号土坑・遺構外出土遺物
		PL11	遺構外出土遺物
		PL12	遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県は、世界的な科学研究の中心であるつくば市において、国際都市にふさわしい町づくりを推進している。平成17年度開通予定のつくばエクスプレスの建設とそれに伴う沿線の開発は、その一環を構成するものである。葛城地区においては、住宅・都市整備公団茨城地域支社（平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業が行われている。

平成6年8月18日、茨城県知事は、茨城県教育委員会に対して、常磐新線（当時）沿線地域の開発を行うため、つくば市葛城地区の土地区画整理事業地内の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて照会を行った。茨城県教育委員会は、平成7年8月から同年12月にかけて現地踏査を、平成12年9・10月には試掘調査を行った。

その結果、開発予定地内において西平塚梨ノ木遺跡の存在を確認し、平成12年11月13日、茨城県教育委員会は、茨城県知事にその旨を回答した。平成13年3月27日、茨城県知事から茨城県教育委員会に対し、当遺跡（31,396㎡）の取り扱いについて協議があった。茨城県教育委員会は当遺跡の重要性に鑑み、また文化財保護の立場から慎重に検討を重ねた。そして、平成13年3月28日、茨城県教育委員会は茨城県知事あてに、当遺跡（31,396㎡のうち20,156㎡）を記録保存とする旨を回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

そこで、都市基盤整備公団茨城地域支社から財団法人茨城県教育財団に当遺跡の発掘調査の依頼があり、茨城県教育財団は発掘調査の委託契約を結び、平成13年6月1日から平成14年3月31日にかけて発掘調査を実施することとなった。

しかし、調査の進捗に伴い、遺構の分布が希薄であることが明らかになった。このため、平成13年9月17日、茨城県教育財団から茨城県教育委員会に当遺跡の発掘調査計画の変更について協議があり、これを受けて平成13年9月21日、茨城県教育委員会は都市基盤整備公団茨城地域支社と、発掘調査計画の変更について協議した。その結果、都市基盤整備公団茨城地域支社から茨城県教育委員会あてに、当遺跡の取り扱いについて回答があり、調査面積を追加して実施する旨の依頼があった。そこで、茨城県は、茨城県教育財団に対し、調査面積の変更を通知した。これにより、当初予定されていた当遺跡の調査面積（20,156㎡）に、11,240㎡を新たに追加し、合計31,396㎡の発掘調査を実施するとともに、平成13年12月から平成14年3月まで、整理業務を実施することになった。

第2節 調査経過

西平塚梨ノ木遺跡の発掘調査は、平成13年6月1日から平成13年11月30日までの6か月間実施した。以下、調査の経過について、その概要を表で記載する。

項 目	6月	7月	8月	9月	10月	11月
諸準備・表土除去・遺構確認	■				■	
遺 構 調 査			■	■		
洗浄・注記・写真整理	■					
補足調査及び後片付け						■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

西平塚梨ノ木遺跡は、つくば市大字西平塚字梨ノ木341-3ほかに所在している。

遺跡のあるつくば市は、市域の北部を筑波山塊が占め、その他の大部分は標高約23m前後の筑波・稲敷台地と呼ばれる平坦な台地となっている。この台地は、西を南流する小貝川、東を同じく南流する桜川によって区切られており、その流域には沖積地が発達している。両河川の間にも東から花室川、蓮沼川、小野川、東谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れ、台地を短冊状に開析し、その支流は樹枝状の谷津を形成している。

筑波・稲敷台地は、茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部であり、下層は竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層であり、その上に板橋層または常総粘土層と呼ばれる白色粘土層、関東ローム層が順次堆積し、最上部は腐植土層となっている。

当遺跡は、つくば市の北部、蓮沼川右岸の標高24.5~25mの台地上に位置している。台地は、5~6mの比高をもって蓮沼川の流れる沖積地に臨んでいる。今回の調査区は平坦な地形であるが、北側から南側に向かって緩やかに傾斜しており、南側には西から東に流れる水路がある。

遺跡周辺の土地利用状況は、主として宅地・畑地・平地林となっており、蓮沼川流域の沖積低地は水田として利用されている。

第2節 歴史的環境

西平塚梨ノ木遺跡は、縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡である。当遺跡の所在する葛城地区周辺では、西側の西谷田川、東谷田川、その支流である蓮沼川、東側の花室川、桜川などの流域に、数多くの遺跡が確認されている。ここでは、当遺跡と同時代の遺跡を中心に述べることにする。

縄文時代の遺跡は、各河川流域で多く確認されている。桜川、花室川流域には、栗原才十郎遺跡(中期)<3>、栗原大山西遺跡(早期)<4>、上境作ノ内遺跡(中期)<5>、柴崎遺跡(早期~前期, 後期)<1>などが分布し、西谷田川、東谷田川流域には酒丸八ヶ代遺跡(中期)<6>、酒丸遺跡(中期)<7>、谷田部福田遺跡(中期)<8>、谷田部台成井遺跡(中期)<9>、鳥名境松遺跡(中期)<10>、小野川流域には、小野崎遺跡(早期・中期)<11>、境松貝塚(中期~後期)などが所在している。境松貝塚からは、貝類に混じって土器や石器も多く出土している。貝類は、オキシジミ、ヤマトシジミ、ムラサキガイ、シオフキ等で構成され、当時、周辺部への海水の侵入が想定されている。

弥生時代では、六十目遺跡<13>や中台遺跡などから後期後半の住居跡が検出されている。六十目遺跡の住居跡からは、十王台式土器や上稲古式土器に比定される壺とともに、南関東系の特徴をもつ壺が出土し、当時の人々は、他地域との交流を深めながら生活していたと考えられる。

4世紀以降、つくば地域にも大和政権の勢力が及び、桜川をはじめ各河川流域の台地上に古墳の築造が開始される。桜川右岸には、玉取千年堂古墳<14>、円筒地輪や人物地輪、動物地輪が出土した上境滝の古台墳群<15>が位置し、左岸には大刀や美豆良を結った頭髪が出土した武者塚古墳等が所在している。当遺跡西側を

流れる東谷田川右岸にも、面野井古墳群〈16〉、関ノ台古墳群〈17〉、島名榎内古墳群〈18〉等の古墳群が所在し、これらの古墳は大半が円墳である。

この時期の集落も多く、当遺跡南側には苜間遺跡〈19〉、水掘遺跡〈20〉、柳橋遺跡〈21〉が位置し、東谷田川右岸には、高田遺跡〈22〉、島名熊の山遺跡〈23〉等が所在している。

熊の山遺跡は発掘調査がなされ、古墳時代から平安時代に形成された大集落であることが確認されている。奈良・平安時代になると当遺跡付近は、律令制度の確立に伴って河内郡省田郷に属するようになる。当遺跡の東側に位置する東岡中原遺跡〈24〉や柴崎遺跡は、発掘調査によりこの時期の大規模な集落であることが確認されている。九重東岡庵寺〈25〉は部分的な発掘調査がなされ、獨立柱建物跡等の建物跡と軒瓦、軒平瓦等の瓦類が検出されている。西坪遺跡は九重東岡庵寺に隣接し、東側の低地には糸里遺構が存在すること等から、旧河内郡の郡衙跡と想定されている。また、桜川をさかのぼると筑波郡衙跡である平沢官衙遺跡が位置し、筑波山塊東部から桜川左岸に位置する小高、東城寺、小野地区には須恵器の窯跡が所在している。これらの遺跡や出土遺物は、社会構造を考える上で重要な手がかりとなっており、当地域は地方政治・文化の中心地であったと考えられる。

鎌倉幕府成立後、筑波山の南部地域は小田氏の勢力下におかれ、方穂故城〈27〉、金田城跡〈28〉、花室城跡〈29〉、小野崎館跡〈30〉、苜間城跡〈31〉等、小田氏関係の城館跡が数多く所在している。また、三村山麓一帯には中世寺院群があり、修行の場、布教活動の中心地となっていた。また、当遺跡付近には、現在の土浦市水国から小田氏が移転したと記録に残る大聖寺があったといわれていた。

戦国期になると、小田氏は次第に衰退し、天正二年(1574年)佐竹氏によって小田城が攻められると、小田氏関係の城館はほとんどが廃城になったと考えられる。その後、一時期当地方は佐竹氏の支配下に置かれるが、秋田移封後には土浦藩に属することになり、その後明治を迎えて現在に至っている。

参考文献

- ・大年次、蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 コロナ社 1977年
- ・蜂須紀夫、大森昌衛 『茨城の地質をめぐって』 築地書館 1979年
- ・谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 谷田部町教育委員会 1975年9月
- ・桜村史編さん委員会 『桜村史 上巻』 桜村教育委員会 1982年3月
- ・大穂町史編纂委員会 『大穂町史』 つくば市大穂地区教育事務所 1989年3月
- ・豊里町史編さん委員会 『豊里の歴史』 豊里町 1985年3月
- ・茨城県史編さん中世部会 『茨城県史料 中世編Ⅰ』 茨城県 1970年
- ・中山信名 『新編常陸国誌』 尚書房 複製版 1964年
- ・茨城県教育財団 「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 境松遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第41集 1987年3月
- ・茨城県教育財団 「研究学園都市計画桜崎地区地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅳ) 柴崎遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月
- ・茨城県教育財団 「(仮称)北条住宅団地建設工事地内埋蔵文化財調査報告書 中台遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第102集 1995年12月
- ・茨城県教育財団 「(仮称)葛城地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 神田遺跡」 『茨城県教育財団文化財調査報告』第134集 1997年3月



第1図 周辺遺跡分布図 (国土地理院5万分の1「土浦」)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平			中近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈平	中近世
○	西平塚梨ノ木遺跡		○			○	○	18	鳥名複内古墳群				○		
1	柴崎遺跡	○	○			○	○	19	苺間遺跡				○		
2	苺間古墳				○			20	水堀遺跡				○		
3	栗原才十郎遺跡		○					21	柳橋遺跡				○		
4	栗原大山西遺跡		○		○			22	高田遺跡				○		
5	上境作ノ内遺跡		○		○			23	鳥名熊の山遺跡				○	○	○
6	酒丸八ヶ代遺跡		○		○			24	東岡中原遺跡	○	○		○	○	○
7	酒丸遺跡		○					25	九重東岡廃寺					○	
8	谷田部福田遺跡		○					26	金田西坪A遺跡					○	
9	谷田部台成井遺跡		○					27	方穂故城						○
10	鳥名境松遺跡		○		○			28	金田城跡						○
11	小野崎遺跡		○		○			29	花室城跡						○
12	鳥名薬師遺跡				○			30	小野崎館跡						○
13	六十目遺跡				○	○	○	31	苺間城跡						○
14	玉取千年堂古墳				○			32	上野天神塚古墳				○		
15	上境滝の台古墳群				○			33	上ノ室城跡						○
16	面野井古墳群				○			34	倉掛遺跡				○		
17	関ノ台古墳群				○			35	高野古墳群				○		

- ・茨城県教育財団 「(仮称)鳥名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 熊の山遺跡」【茨城県教育財団文化財調査報告】第149集 1999年3月
- ・茨城県教育財団 「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3」【茨城県教育財団文化財調査報告】第170集 2001年3月
- ・土浦市史編さん委員会 「土浦市史」 1975年
- ・千葉義重 「葛城村史」 1990年3月

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要

当遺跡は、今回の調査によって、縄文時代前・中期、平安時代前期及び中・近世にかけての複合遺跡であることが判明した。遺構としては、平安時代前期の竪穴住居跡1軒、中世の地下式墳1基、井戸跡3基、溝跡5条、土坑墓2基、時期不明の溝跡16条、土坑224基が検出された。

遺物は、遺物取納箱(60×40×20cm)に28箱出土している。遺物の大部分は平安時代の土師器(甕)と須恵器(坏・壺・甗・高坏・鉢)、中・近世の石造物(五輪塔・宝篋印塔)である。その他の遺物は、縄文土器片、石鏃、磨製石斧、凹石、土師質土器(小皿)、陶磁器片、板碑、砥石、古銭、梳形滓等が出土している。

第2節 基本層序

調査区北部のB4g2区にテストピットを設定し、約1.5m掘り下げて基本土層の観察を行い、第2図に示すような土層地積状況を確認した。

1層は、暗褐色の表土層で、ローム中ブロック・ローム粒子を中量、ローム大ブロック・ローム小ブロックを少量含んでいる。粘性は弱く、締まりもあまりない。層厚は10cmほどである。

2層は、褐色の腐食土層で、表土とローム層の間層と考えられる。ローム小ブロック・ローム粒子を中量、ローム中ブロックを少量含んでいる。粘性と締まりはともに普通で、層厚は15~20cmである。

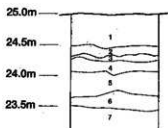
3層は、褐色のソフトローム層で、炭化粒子を少量含んでいる。粘性と締まりはともに普通で、層厚は10cm以下である。

4層は、にぶい褐色をしているハードローム層で、炭化粒子を少量、白色粒子と赤色粒子を極少量含んで締まっている。層厚は20cmほどである。

5層は、黒褐色のハードローム層で、黒色粒子を少量、赤色粒子・白色粒子を極少量含んでかたく締まっている。ハードローム層と思われる地層の下部に堆積した暗褐色土層であることから、第二黒色帯(BBⅡ)と考えられる。層厚は30~40cmである。

6層は、明褐色のハードローム層で、赤色粒子・白色粒子を極少量含んでかたく締まっている。層厚は15~30cmである。以上が立川ローム、以下が武蔵野ロームに対比されるものと考えられる。

7層は、にぶい褐色をしたローム層で、炭化粒子を少量含んでいて粘性は強い。



第2図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 奈良時代の遺構と遺物

今回の調査で、奈良時代の竪穴住居跡1軒を確認した。以下、確認した遺構と出土遺物について記載する。

(1) 竪穴住居跡

第1号住居跡(第3図)

位置 調査区の西部、C716区に位置し、平坦な台地上に立地している。

重複関係 第13号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.40m、短軸3.30mの隅丸方形で、主軸はN-88°-Eを指している。壁の南側は攪乱により削平されているが、残存高は26~32cmで、各壁ともほぼ直立する。

床 はほぼ平坦で、若干軟弱である。壁際は、竪北側の北壁下から北西コーナー部壁下を経て南壁下の中央部まで延びている。断面はU字形で、上幅12~30cm、下幅4~11cm、深さ7cmである。

竈 東壁の中央部に付設されている。規模は、焚口部から煙道部まで107cm、両袖部幅89cmである。袖部は確認できないが、北袖部と考えられる部分は地山を削りだして基部がつくられている。天井部は崩落しており、土層断面図中、第2・3層が粘土粒子や焼土ブロックを含むことから、崩落土と考えられる。煙道部は壁外へ約72cm掘り込み、20度の傾きで立ち上がる。火床部は長軸73cm、短軸58cmの楕円形で、深さ84cmほど掘り込み、焼土ブロックやロームブロックを含んだ灰褐色土を埋めてつくっている。火床面は、東壁ライン上に位置し、煙道部の立ち上がり付近には、支脚として転用されたと思われる火熱を受けた須恵器高坏が、正位で掘えられている。

覆土層解説

1	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム中量、焼土小ブロック少量、炭化物微量
2	暗赤褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量	6	灰褐色	ローム粒子中量、焼土小ブロック少量
3	暗赤褐色	ローム粒子・焼土中ブロック少量	7	にぶい赤褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
4	褐色	ローム粒子中量、焼土中ブロック微量	8	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量
			9	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量

覆土 13層からなる。ロームブロックや焼土ブロックを多く含むことから、人為堆積と考えられる。

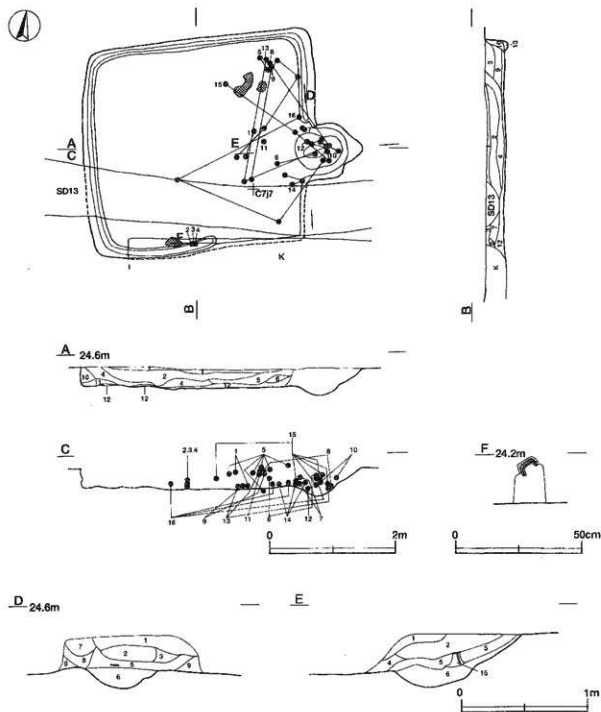
土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム小ブロック・炭化物微量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム大ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物微量	8	黒褐色	ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
3	暗褐色	ローム小ブロック少量	9	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物微量	10	灰褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
5	黒褐色	ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	11	黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化物・炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム大ブロック・焼土小ブロック少量	12	褐色	ローム中ブロック・焼土中ブロック少量、炭化粒子微量
			13	暗褐色	ローム小ブロック少量

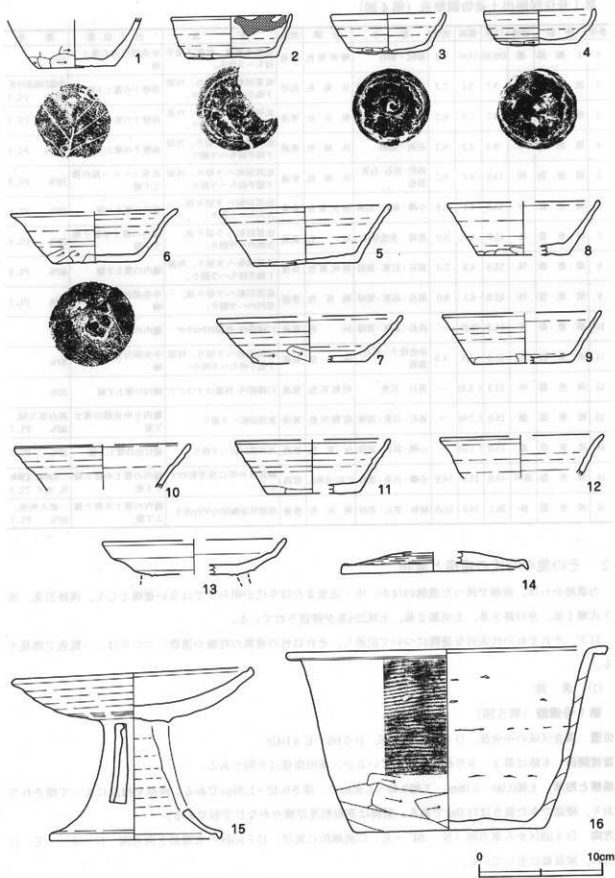
遺物 土師器片15点、須恵器片111点が出土している。遺物は、層的には覆土中・下層から検出され、平面的には本跡竈内・中央部・北東部から多く出土している。第4図2, 3, 4の須恵器高坏は、南壁際の覆土下層から重なった逆位で出土している。7, 10, 12の須恵器高坏は、竈内から出土している。11の須恵器高坏は、中央部付近の覆土中層、14の須恵器蓋は竈付近の覆土下層からそれぞれ出土している。1の土師器甕、8の須恵器高坏、13の須恵器蓋は、覆土上層と覆土下層から出土した破片が接合したものであり、9の須恵器高坏、15の須恵器高坏、

16の須恵器鉢は、覆土中層と覆土下層から出土した破片が接合したものである。15の須恵器高環の脚部は、壺内の煙道部付近に正位で出土し、火熱を受けていることから、支脚として使用されたと考えられる。

所見 本跡の遺物は、覆土上層や覆土中層から出土したものと覆土下層から出土したものが接合関係にあることから、短時間で埋められたことが想定される。本跡の時期は、重複関係と出土土器から、8世紀後半と推定される。



第3図 第1号住居跡実測図



第4图 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表(第4図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
1	土師器	壺	(10.8)	(3.9)	6.2	砂粒・長石	暗赤褐色	普通	底部木蓋痕。外面下縁手持ちヘラ削り。	中央部付近の覆土下層	20%
2	須恵器	坏	9.7	3.4	7.3	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	体部内面僅付着, 100% PL.7
3	須恵器	坏	9.1	2.9	6.2	長石・石英・雲母	褐灰色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	100% PL.7
4	須恵器	坏	9.4	3.2	6.3	石英・雲母	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	南壁下の覆土下層	100% PL.7
5	須恵器	坏	13.9	4.7	8.2	砂粒・長石・石英・雲母	灰褐色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	北東コーナー部の覆土上層	70% PL.8
6	須恵器	坏	13.5	4.1	6.9	小礫・長石・石英	暗灰黄色	普通	底部回転ヘラ切り後、一方肉のヘラ削り。	壺内の覆土上層	50% PL.8
7	須恵器	坏	15.0	3.7	9.0	雲母・赤色粒子	灰色	普通	底部回転ヘラ切り後、一方肉のヘラ削り。	壺内の覆土中層と覆土下層	30% PL.7
8	須恵器	坏	12.4	4.3	7.3	長石・石英・雲母	暗灰黄色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	壺内の覆土下層	40% PL.8
9	須恵器	坏	12.9	4.1	8.0	長石・石英・雲母	褐灰色	普通	底部回転ヘラ切り後、一方肉のヘラ削り。	中央部付近の覆土下層	30% PL.7
10	須恵器	坏	14.3	(3.6)	—	長石・石英・雲母	灰色	普通	口縁部内・外面クロコナア	壺内の覆土中層	20%
11	須恵器	坏	12.6	4.4	7.5	赤色粒子・長石・雲母	灰色	普通	底部回転ヘラ切り。外面下縁手持ちヘラ削り。	中央部付近の覆土中層	30%
12	須恵器	坏	13.3	(3.4)	—	長石・石英	明褐色	普通	口縁部内・外面クロコナア	壺内の覆土下層	20%
13	須恵器	盤	15.0	(2.9)	—	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	底部回転ヘラ削り	壺内と中央部の覆土下層	高台部欠損, 30% PL.7
14	須恵器	蓋	15.0	(1.6)	—	小礫・長石・雲母	灰黄色	普通	天井部回転ヘラ削り	壺付近の覆土下層	40% PL.7
15	須恵器	高坏	19.6	13.9	14.0	小礫・長石・雲母	にひ赤褐色	普通	脚部3か所に長方形のすかし	壺内の覆土中層と覆土下層	二次焼成, 支脚転用, 80% PL.8
16	須恵器	鉢	26.1	14.8	22.0	砂粒・長石・雲母	褐灰色	普通	体部外面縦位の平行印き	壺内の覆土中層と覆土下層	一部火炎痕, 60% PL.7

2 その他の時代の遺構と遺物

当遺跡からは、前項で扱った遺構のほか、中・近世または年代が明らかでない遺構として、溝跡21条、地下式墳1基、井戸跡3基、土坑墓2基、土坑24基が確認されている。

以下、それぞれの代表的な遺構について記述し、それ以外の遺構の特徴や遺物については、一覧表で掲載する。

(1) 溝跡

第1号溝跡(第5図)

位置 調査区域の中央部、D 4 a8～D 5 a5, D 5 b5～E 4 b4区。

重複関係 本跡は第3・5号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅0.60～2.16m、下幅0.40～1.36mで、深さ0.42～1.26mである。南部を攪乱によって壊されており、確認できた長さは71.0mである。断面は逆台形及び緩やかなU字形である。

方向 D 4 a8区から東方向(N-84°-E)に直線的に延び、D 5 a5区の東端部で南方向(N-4°-E)に折れ、攪乱部に至っている。

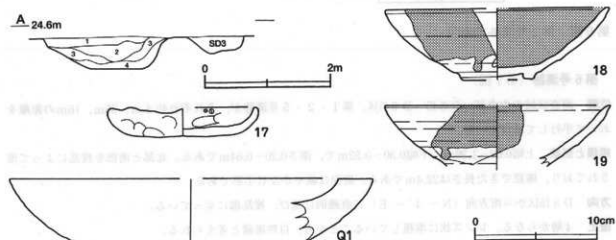
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
 4 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物 土師質土器片3点、瀬戸・美濃系陶器片34点、茶臼片1点が出土している。第5図17の土師質土器は覆土上層、18・19の古瀬戸平碗は覆土下層、Q1の茶臼は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 東西方向から南北方向に規則的に曲折しているが、性格は不明である。出土陶器の生産年代が14世紀中葉から後葉に位置付けられていることから、本跡の時期は、14世紀中葉以降と考えられる。



第5図 第1号溝跡・出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
17	土師質土器	小皿	12.0	2.4	9.0	砂粒・雲母	暗灰褐色	不良	口縁部、体部内・外面指頭押圧痕。	覆土上層	40%
18	陶器	平碗	18.0	5.7	6.0	砂粒・石英	灰白色 淡黄色	良好	体部内・外面ロクロナデ、内・外面灰輪施軸。	覆土下層	古瀬戸後期、30%
19	陶器	平碗	18.0	4.8	—	砂粒・石英	灰白色 淡黄色	良好	体部内・外面ロクロナデ、内・外面灰輪施軸。	覆土下層	古瀬戸後期、20%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)				
Q1	茶臼	29.0	5.0	—	280.0	安山岩		覆土下層	5%

第2号溝跡 (第6図)

位置 調査区域の東部、C 615-D 6f5, D 6h4-D 6j4区。

重複関係 本跡は第13号溝に掘り込まれている。

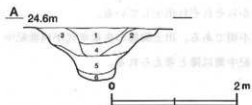
規模と形状 上幅1.30~2.12m, 下幅0.32~0.69mで、深さ0.68~1.70mである。南部を擾乱によって壊されており、確認できた長さは41.2mである。断面は逆台形及び緩やかなU字形である。

方向 C 615区から南方向 (N-8°-E) に直線的に伸び、擾乱部に至っている。

覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|------------|
| 1 黒 褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子微量 | 4 暗 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 2 黒 褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 | 5 黒 色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 黒 色 | ローム中ブロック少量 | 6 暗 褐色 | ローム中ブロック少量 |



遺物 遺物は出土していない。
 所見 時期は、遺物が出土していないため不明である。

第6図 第2号溝跡実測図

第6号溝跡 (第7図)

位置 調査区域の中央部、D5f5～D5j5区。第1・2・5号溝跡が、それぞれ約4m、36m、16mの距離において平行して延びている。

規模と形状 上幅0.69～1.30m、下幅0.30～0.52mで、深さ0.20～0.64mである。北部と南部を擾乱によって壊されており、確認できた長さは22.4mである。断面は緩やかなU字形である。

方向 D5f5区から南方向(N-4°-E)に直線的に延び、擾乱部に至っている。

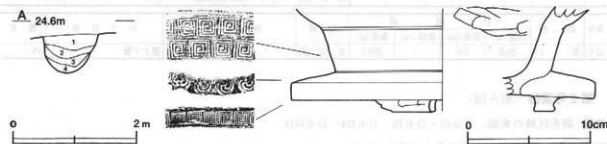
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------|--------|----------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量 | 3 黒 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ローム粒子中量 | 4 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |

遺物 土師質土器片1点、陶器片3点が出土している。第7図20の土師質の台座形土製品は覆土中層から出土している。

所見 本跡は、第1・2・5号溝跡と平行して南北方向に延びているが、性格は不明である。出土陶器の時期が中世に位置付けられていることから、時期は中世と考えられる。



第7図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
20	土師質土器	香炉	—	(8.6)	25.0	長石・石英・雲母	灰白色	普通	内・外底へラテラ、雷文・巴文の押し痕	覆土中層	5% P1.7

第13号溝跡（第8図）

位置 調査区域の中央部から東部，C 515～C 715区。

重複関係 本跡は第12号溝に掘り込まれ，第1号住居跡，第2・14号溝跡を掘り込んでいる。

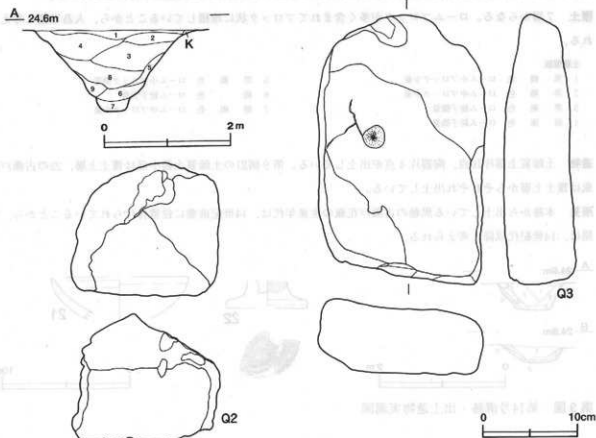
規模と形状 上幅1.08～2.26m，下幅0.18～0.98mで，深さ1.30mである。確認できた長さは85.98mである。断面は逆台形である。

方向 C 515区から東方向（N-90°-E）に直線的に延びている。

覆土 9層からなる。ロームブロックが多く含まれてブロック状に堆積していることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム小ブロック中量
2	暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム小ブロック少量，炭化物微量
3	黒褐色	ローム中ブロック中量，炭化粒子微量	7	黒褐色	ローム中ブロック少量
4	暗褐色	ローム中ブロック少量	8	黒褐色	ローム小ブロック中量
			9	暗褐色	ローム中ブロック中量



第8図 第13号溝跡・出土遺物実測図

遺物 陶器片2点，石造物（五輪塔）片9点，砥石2点が出土している。第8図Q2の五輪塔火輪は覆土上層，Q3の砥石は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 掘り込みが深く，東西方向に直線的に延びているが，性格は不明である。出土している五輪塔の生産年代が15世紀後半から16世紀前半に位置付けられていることから，時期は15世紀後半から16世紀前半以降と考えられる。

第13号溝跡出土遺物観察表 (第8図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)								材質	特徴	出土位置	備考
			全高	斜度高	軒厚	軒反厚	上面幅	軒幅	ホソ深	ホソ径				
Q2	五輪塔	火輪	13.5	5.7	7.8	(6.6)	—	(15.5)	—	—	花崗岩		覆土上層	30%

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
Q3	不明石製品	28.6	17.6	7.3	6600.0	砂岩	台石カ	覆土中層	火熱痕

第14号溝跡 (第9図)

位置 調査区域の中央部から西部, D2 d5~C514区。

重複関係 本跡は第13号溝に掘り込まれている。第16・18号溝跡とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅0.72~1.46m, 下幅0.24~0.92mで, 深さ0.16~0.47mである。西部が調査区域外に延びており, 確認できた長さは128.95mである。断面は, 逆台形及び緩やかなU字状である。

方向 C515区から西方向に直線的に延び, C411区で緩やかに屈曲して調査区域外に至っている。

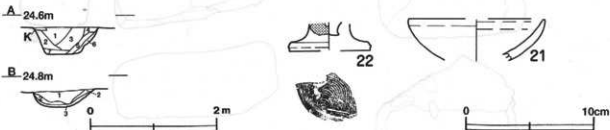
覆土 7層からなる。ロームブロックが多く含まれてブロック状に堆積していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | | |

遺物 土師質土器片10点, 陶器片4点が出土している。第9図21の土師質土器小皿は覆土上層, 22の古瀬戸花瓶は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡から出土している黒釉の古瀬戸花瓶の生産年代は, 14世紀前葉に位置付けられていることから, 時期は, 14世紀代以降と考えられる。



第9図 第14号溝跡・出土遺物実測図

第14号溝跡出土遺物観察表 (第9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
21	土師質土器	小皿	11.0	3.3	—	砂粒・炭母	にぶい橙色	普通	内・外面ナデ	覆土上層	器面荒れ, 30%
22	陶器	花瓶	—	2.4	6.5	砂粒	灰褐色	普通	底部回転水切り痕。脚部鉄軸施。	覆土上層	古瀬戸後期, 20%

第15号溝跡 (第10図)

位置 調査区域の中央部から西部, D 2b8~C 4j1区。

重複関係 本跡は第188号土坑に掘り込まれている。第20号溝跡とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 上幅1.38~2.22m, 下幅0.40~1.18mで, 深さ0.25~0.53mである。確認できた長さは16.82mである。断面は, 皿状及び緩やかなU字状である。

方向 C 4j1区から西方向に直線的に延び, C 3i8区で緩やかに屈曲して攪乱部に至っている。

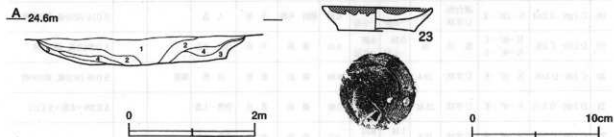
覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子中量 |

遺物 土師質土器片9点, 陶器片6点, 鉄滓1点が出土している。第10図23の土師質土器小皿は覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物の年代から15世紀代と考えられる。



第10図 第15号溝跡・出土遺物実測図

第15号溝跡出土遺物観察表 (第10図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
23	土師質土器	小皿	8.8	1.9	6.2	雲母・長石	にぶい褐色	普通	底部回転糸切り痕	覆土上層	口縁部清繕付着, 80% PL.7

第2表 溝跡一覧表

番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ						
1	D 4a8~D 5a5, D 5b3~E 4b4	N-8d'-E N-4'-E	進台形 U字状	71.0	0.60 ~2.15	0.40 ~1.36	1.26	緩斜	平坦・皿状	自然	土師質土器, 茶白		SD 3・5と合流, 新旧不明
2	C 6i5~D 6i5, D 6b4~D 6j4	N-8'-E	進台形 U字状	41.2	1.30 ~2.12	0.32 ~0.69	1.7	緩斜	皿状	自然・人為			本跡・SD 13
3	C 4j1, C 5j1~C 5j5	N-9d'-E	皿状 U字状	16.76	0.42 ~1.28	0.18 ~0.64	0.59	緩斜・外傾	平坦・皿状	人為			SD 1と合流, 新旧不明
4	D 6j8~D 6j9	N-9d'-E	V字状 U字状	3.65	0.5 ~1.20	0.17 ~0.50	0.3	緩斜・外傾	V字状	人為			
5	D 4d8~B 4f9	N-2'-E	皿状	21.9	0.82 ~1.34	0.34 ~1.06	0.4	緩斜	皿状	自然			SD 1と合流, 新旧不明
6	D 5i5~D 5j5	N-4'-E	U字状	24.4	0.69 ~1.30	0.30 ~0.52	0.64	緩斜	皿状	自然	土師質土器, 陶器		

番号	位置	方向	断面形	規模 (m)				壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ						
7	C 6j1~D 6c1 ~D 6c4	N-0°-E N-90°-E	逆台形 U字状	26.8	0.66 -1.30	0.20 -0.40	0.65	緩斜	平坦・重状	人為		SD 8・9と合流, 新旧不明, 本跡→SK35	
8	C 6j3~D 6d3	N-0°-E	逆台形	9.3	0.60 -0.94	0.36 -0.56	0.28	緩斜	平坦	人為		SD 7と合流, 新旧不明	
9	C 6j1~C 6j3	N-90°-E	V字状 U字状	7.9	0.60 -0.92	0.16 -0.69	0.38	緩斜	V字状	自然・人為		SD 7と合流, 新旧不明	
10	B 4f6~B 5f1 ~B 5f6	N-90°-E	皿状 U字状	42.8	0.50 -0.80	0.24 -0.58	0.2	緩斜	平坦	自然・人為		本跡→SD12-S K110	
11	D 7g2~D 7f9	N-0°-E	皿状	8.06	0.72 -1.70	0.24 -1.38	0.35	緩斜	重状	自然・人為			
12	B 5e6~C 5f6	N-0°-E	U字状	52.38	0.66 -1.02	0.34 -0.72	0.35	緩斜・外傾	平坦	人為		SD10-13-本跡	
13	C 5f5~C 7f5	N-90°-E	逆台形 U字状	85.98	1.08 -2.26	0.18 -0.98	1.3	緩斜	平坦	自然・人為	石遺物, 陶器	S11・SD 2・14-本跡→SD 12	
14	D 2d5~C 5f4	N-90°-E N-44°-E	逆台形 U字状	128.95	0.72 -1.46	0.24 -0.92	0.47	緩斜・外傾	平坦・皿状	人為	土師質土器, 陶器	SD13-16-18と合流, 新旧不明, 本跡→SD13	
15	D 2b8~C 4j1	N-60°-E	皿状 U字状	16.82	1.38 -2.22	0.40 -1.18	0.53	緩斜	重状	人為	土師質土器, 陶器	SD20と合流, 新旧不明, 本跡→SK188	
16	C 1g6~D 2d8	N-130°-E	U字状	52.64	1.16 -2.08	0.38 -0.88	0.46	緩斜	重状	自然・人為		SD14-18と合流, 新旧不明	
18	C 1g6~D 2d4	N-130°-E	逆台形 U字状	48	0.30 -0.60	0.05 -0.40	0.46	緩斜・外傾	平坦	人為		SD14-16と合流, 新旧不明	
19	D 2b9~C 3j6	N-90°-E N-60°-E	皿状	28	0.18 -1.10	0.07 -0.52	0.18	緩斜	平坦	自然・人為		SD20と合流, 新旧不明	
20	C 3f6~D 3d6	N-10°-E	U字状	19.4	1.76 -2.01	0.42 -0.64	0.94	緩斜	重状	自然	陶器	SD15-19と合流, 新旧不明	
21	D 2d0~D 3c6	N-80°-E	U字状	23.44	0.67 -1.36	0.04 -0.62	0.88	緩斜	重状	自然・人為		S K200-本跡→S K 211	
22	C 1e0~C 2g1	N-10°-W	U字状	12.3	1.14 -1.30	0.72 -1.02	0.5	外傾	平坦	自然・人為			

(2) 地下式墳

第1号地下式墳 (第11図)

位置 調査区域の中央部, C 4 10区。

壁坑 主室は天井部が崩落している。規模は, 確認面で長軸0.91m, 短軸0.76m, 底面で長軸0.85m, 短軸0.54m, 平面形は長軸が主軸と一致する長方形である。確認面からの深さは60cmで, 主室底面から13cm高い。底面はほぼ平坦であるが, 主室底面側だけはスロープ状に緩やかに傾斜する。

主室 天井部が崩落しており, 天井部の形状は不明である。規模は, 確認面で長軸2.31m, 短軸1.65m, 底面で長軸2.04m, 短軸1.43m, 平面形は主軸が長軸と直交する長方形である。底面は平坦で, 確認面からの深さは79cmである。

壁 壁坑・主室ともに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-0°-E

覆土 9層からなる。3層は, ロームブロック・粘土粒子を多く含んでいることから, 天井部・壁の崩落土層と考えられる。これより下位の土層は, ロームブロック・ローム粒子を多く含むことから天井部の崩落土層の可能性はある。

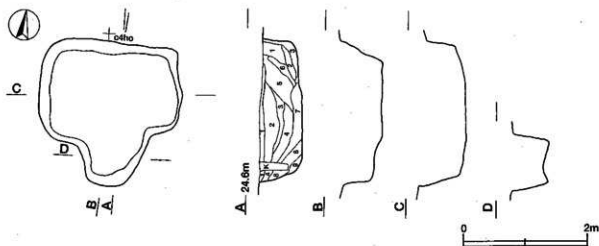
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量 | 4 黒色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック少量, 焼七小ブロック微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック微量 |

- 7 黒褐色 ローム粒子中量
8 暗褐色 ローム中ブロック中量

- 9 暗褐色 ローム粒子多量

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため明らかではないが、形状から中世以降と推定される。



第11図 第1号地下式竈実測図

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第12図)

位置 調査区域の北東部, B 7a3区。

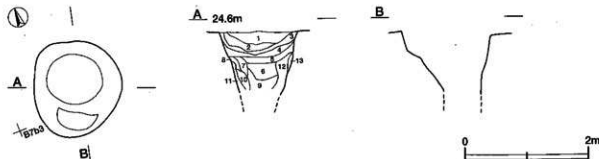
規模と形状 平面形は楕円形である。確認面から0.95mの深さまで急傾斜を呈し、そこから下位は円筒形である。規模は、上面径1.38~1.60m、底面径0.81~0.93mで、深さ約1mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり、それ以下の調査を打ち切った。

覆土 13層からなり、1~4層はレンズ状の堆積から自然堆積、5~13層はブロック状の堆積から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック中量 | 8 暗褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ローム大ブロック少量 | 9 暗褐色 ローム中ブロック中量 |
| 3 暗褐色 ローム大ブロック少量 | 10 暗褐色 ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック少量 | 11 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 によい黄褐色 ローム粒子中量 | 12 暗褐色 ローム小ブロック中量 |
| 6 黒色 ローム中ブロック中量, 炭化物微量 | 13 褐色 ローム粒子多量 |
| 7 黒褐色 ローム中ブロック少量, 炭化物微量 | |

所見 本跡の時期は、遺物が出土していないため明らかではないが、形状から中世以降と推定される。



第12図 第1号井戸跡実測図

第2号井戸跡 (第13図)

位置 調査区域の北部, B 4 15区。

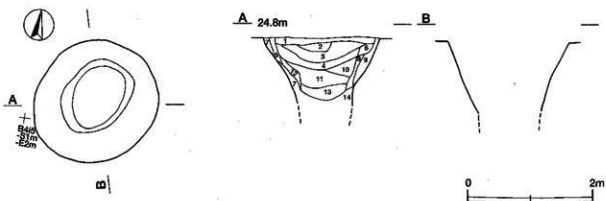
規模と形状 平面形は楕円形である。確認面から1.16mの深さまで急傾斜を呈し, そこから下位は円筒形である。規模は, 上面径1.88~2.08m, 底面径0.78~1.06mで, 深さ約1.2mまで掘り込んだところで湧水が著しくなり, それ以下の調査を打ち切った。

覆土 14層からなり, ブロック状の堆積から人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子多量
3 黒褐色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック少量
4 黒褐色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	11 黒色	ローム小ブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子中量	12 黒色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	13 黒色	ローム小ブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子多量	14 黒褐色	ローム大ブロック少量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため明らかではないが, 形状から中世以降と推定される。



第13図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡 (第14図)

位置 調査区域の中央部, C 2 h6区。

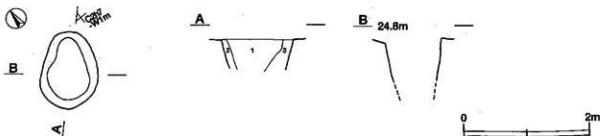
規模と形状 平面形は不整楕円形である。確認面から約0.7mの深さまで急傾斜を呈し, そこから下位は湧水が著しくなり, それ以下の調査を打ち切った。上面径の規模は, 0.89~1.23mである。

覆土 3層からなり, ロームブロックを多く含む黒色土が堆積していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒色	ローム小ブロック中量
2 黒色	ローム粒子中量
3 黒色	ローム粒子中量

所見 本跡の時期は, 遺物が出土していないため明らかではないが, 形状から中世以降と推定される。



第14図 第3号井戸跡実測図

第3表 井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	形態	規		横		壁面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 新旧関係(古-新) その他
				長径(縦)×短径(横)(m)	深さ(m)	平面形	断面						
1	B 7 a3	N-34'-E	円筒形	1.60×1.38	1.01以上	楕円形	碓削・外傾	—	自然・人為	—	中世以降	—	—
2	B 4 15	N-35'-E	円筒形	2.08×1.88	1.14以上	楕円形	碓削	—	人為	—	中世以降	—	—
3	C 2 h6	N-37'-E	円筒形	1.23×0.89	0.65以上	不整形円形	外傾	—	人為	—	中世以降	—	—

(4) 土坑

第21号土坑 (第15図)

位置 調査区域の中央部東寄り, D 5 e8区。

規模と形状 長径1.18m, 短径0.90mの不整形円形で, 深さは44cmである。壁は外傾して立ち上がる。2か所のピットが検出された。西壁際のは長径32cm, 短径27cmの楕円形で, 確認面からの深さ40cm, 西側の底部のは長径25cm, 短径21cm, 確認面からの深さ43cmである。

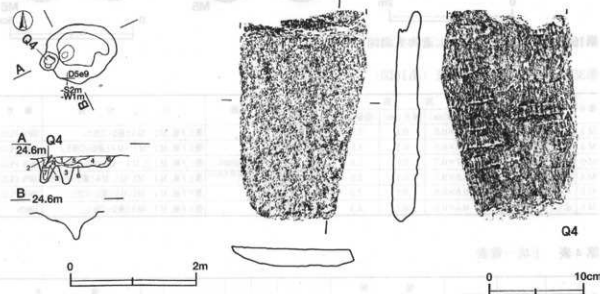
覆土 7層からなり, ロームブロックを含む黒色土がブロック状に堆積していることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | | | | |
|---|----|----|-----------------|---|-----|---------|
| 1 | 黒 | 褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 暗 | 褐色 | ローム粒子微量 | 6 | 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 | 暗 | 褐色 | ローム小ブロック少量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 褐色 | | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | | | |

遺物 石造物1点が出土している。第15図Q4は板碑の基部で, 立位で検出されている。また, 覆土中から骨粉が少量検出されている。

所見 本跡は土坑墓で, 時期は出土遺物から中世以降と推定される。



第15図 第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表 (第15図)

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4	板碑	(22.7)	18.0	2.5	1140.0	緑泥片岩	武蔵型板碑の基部, 裏面のみ奥。	西壁際ピットの覆土中層	30% PL 9

第35号土坑 (第16図)

位置 調査区域の中央部東寄り、D6b1区。

重複関係 本跡は、第7号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.20m、短径0.96mの隅丸長方形で、深さは64cmである。壁は外傾して立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

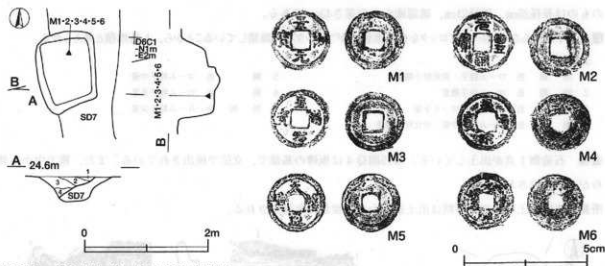
覆土 4層からなり、ロームブロックを含んだ不自然な堆積状況をしていることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム中ブロック散量 | 4 黒褐色 ローム粒子中量 |

遺物 古銭6点が出土している。第16図M1～6の古銭は、中央部北寄りの覆土下層から6枚が重なった状態で検出されている。

所見 本跡は土坑墓で、時期は出土遺物から中世以降と推定される。



第16図 第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表 (第16図)

番号	銭名	計測値			材質	特徴	出土位置	備考	
		径径(cm)	穿孔幅(cm)	厚さ(cm)					重量(g)
M1	景元通寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層、M2～M6と重なって出土。	100% PL10
M2	元豊通寶	2.5	0.7×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層、M1、M3～M6と重なって出土。	100% PL10
M3	皇宋通寶	2.5	0.7×0.7	0.1	2.5	銅	背面無文 北宋銭(1088年)	覆土下層、M1～2、M4～M6と重なって出土。	100% PL10
M4	皇宋通寶	2.5	0.8×0.7	0.1	2.5	銅	背面無文 皇朝孔銭(北宋銭(1088年))	覆土下層、M1～M3、M5～M6と重なって出土。	100% PL10
M5	天口通寶	2.4	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層、M1～M4、M6と重なって出土。	100% PL10
M6	元口通寶	2.3	0.5×0.5	0.1	2.5	銅	背面無文	覆土下層、M1～M5と重なって出土。	100%

第4表 土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		築面	底面	覆土	出土遺物	時代	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(幅)×短径(幅)(m)	深さ(cm)						
1	E5C5	N-35°-W	楕円形	1.36×0.99	64	外	傾	段差	人為		
2	E5C6	N-42°-E	不整形円形	1.20×1.03	8	緩	傾	直状	人為		
3	E5C6	N-35°-E	不整形円形	0.60×0.50	22	外	傾	平坦	人為		
4	D5J2	-	円形	0.90×0.90	10	緩	傾	平坦	自然		
5	D5I2	N 90° W	隅丸長方形	1.08×0.75	20	外傾	傾斜	凸円	人為		
6	D5I2	-	円形	1.07×1.00	29	緩	傾	凸円	自然		
7	D5I3	N-0°-E	隅丸長方形	0.79×0.65	13	緩	傾	凸円	人為		SK8→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 遺構番号・新旧関係(古一新)
				長径(横)×短径(縦)(m)	深さ(m)						
8	D 513	N-6°-E	不整楕円形	0.80×0.54	10	縦	斜	風状	自然		本跡→SK7
9	D 511	N-34°-W	不定形	1.16×0.68	48	外	傾	風状	人為		
10	D 5e2	N-19°-E	楕円形	0.90×0.70	28	外	傾	凸凹	自然		
11	D 612	N-25°-E	楕円形	0.72×0.50	14	縦	斜	凸凹	人為	須磨器	
12	D 612	N-40°-W	不整楕円形	1.06×0.72	20	縦	斜	風状	自然	陶器、骨	
13	D 5h0	N-52°-W	不整楕円形	1.10×0.66	14	縦	斜	段差	自然		
14	D 510	N-40°-W	不整楕円形	0.76×0.46	3	縦	斜	平坦	人為		
15	D 511	N-67°-E	楕円形	0.86×0.56	66	外傾	縦斜	風状	自然		
16	D 5c1	N-75°-W	楕円形	0.34×0.25	20	外	傾	段差	人為		
17	D 4e0	-	円形	0.34×0.32	28	外	傾	風状	人為		
18	D 4e0	N-16°-W	不整楕円形	0.36×0.28	44	外	傾	平坦	人為		
19	D 4e0	-	円形	0.32×0.30	30	外	傾	風状	人為		
20	D 4f9	-	円形	0.48×0.44	30	直立	外傾	段差	人為		
21	D 5e8	N-62°-E	不整楕円形	1.18×0.90	44	外傾	縦斜	平坦	人為	板碑、骨粉	中世 土坑墓
22	D 5b8	N-35°-E	楕円形	0.98×0.76	20	外	傾	平坦	人為		
23	D 6c2	N-0°-E	隅丸長方形	1.16×0.78	7	縦	斜	平坦	人為	骨片	SD7→本跡, 中世の土坑墓
24	D 6c2	N-36°-W	不整楕円形	1.24×0.85	16	縦	斜	平坦	人為	骨片	SD7→本跡, 中世の土坑墓
25	D 6b2	N-64°-W	不整楕円形	1.24×0.78	27	縦	斜	段差	人為	骨片	中世の土坑墓
26	D 6b1	N-82°-W	不定形	0.93×0.63	10	縦	斜	風状	人為	骨片	中世の土坑墓
27	D 6a1	N-63°-W	楕円形	0.73×0.46	8	縦	斜	風状	人為		中世の土坑墓
28	D 6c3	N-75°-W	不定形	1.13×0.51	9	縦	斜	平坦	人為		中世の土坑墓
29	D 5c9	N-60°-E	隅丸長方形	0.66×0.46	22	直立	縦斜	平坦	人為		
30	D 5c8	N-26°-W	不定形	0.93×0.90	7	縦	斜	風状	人為		中世の土坑墓
31	D 5c9	N-63°-W	不定形	0.70×0.20	14	縦	斜	風状	人為		中世の土坑墓
32	D 5c9	N-40°-W	不定形	0.95×0.61	29	縦	斜	風状	人為		中世の土坑墓
33	D 5c9	N-84°-W	楕円形	0.79×0.58	8	縦	斜	風状	人為		中世の土坑墓
34	D 5e9	N-25°-W	楕円形	1.18×0.75	32	縦	斜	風状	人為	骨片	中世の土坑墓
35	D 6b1	N-14°-W	隅丸長方形	1.20×0.96	64	外傾	縦斜	段差	自然	古銭	中世 SD7→本跡, 土坑墓
36	D 8f3	N-2°-E	不整楕円形	0.70×0.44	19	縦	斜	平坦	自然		
37	D 8d2	N-46°-W	楕円形	0.43×0.18	21	縦	斜	平坦	自然		
38	D 8d1	N-22°-W	楕円形	0.45×0.40	16	縦	斜	風状	自然		
39	D 7d0	N-67°-W	不整楕円形	0.53×0.38	23	外傾	縦斜	段差	人為		
40	C 7h8	N-53°-E	楕円形	0.63×0.47	25	縦	斜	風状	自然		
41	C 7g7	N-77°-E	楕円形	0.60×0.40	26	外傾	縦斜	段差	自然		
42	C 7f8	N-60°-E	不定形	1.25×0.88	35	外	傾	凸凹	人為		
43	C 7e9	N-19°-W	楕円形	0.64×0.45	40	縦	斜	段差	自然		
44	C 7d9	N-85°-E	楕円形	0.79×0.47	13	縦	斜	平坦	自然		
45	C 7e7	N-88°-E	楕円形	1.02×0.80	16	縦	斜	風状	自然		
46	C 7e6	N-16°-E	楕円形	0.55×0.47	16	外	傾	凸凹	人為		
47	C 7e6	N-44°-E	楕円形	0.60×0.47	25	外	傾	風状	人為		
48	C 7e6	N-72°-E	隅丸長方形	0.78×0.47	26	縦	斜	平坦	人為		
49	C 7b5	N-53°-E	楕円形	0.63×0.44	15	外傾	縦斜	平坦	人為		
50	C 6a7	N-54°-E	楕円形	1.12×0.88	20	縦	斜	風状	自然		
51	C 7b7	N-59°-E	不定形	1.88×1.24	32	外傾	縦斜	凸凹	自然		
52	C 7a8	N-65°-W	楕円形	0.57×0.36	24	外	傾	風状	自然		
53	B 7j8	N-63°-E	楕円形	0.67×0.43	37	外傾	縦斜	風状	人為		
54	C 7a5	N-54°-E	楕円形	0.34×0.28	24	外	傾	風状	人為		
55	C 7a3	N-85°-E	隅丸長方形	0.48×0.28	8	外傾	縦斜	風状	自然		
56	B 7j5	N-33°-E	楕円形	0.59×0.45	12	外	傾	平坦	人為		
57	B 7j5	N-1°-W	楕円形	0.44×0.28	20	外	傾	風状	人為		
58	B 7i6	N-54°-E	楕円形	0.59×0.44	15	縦	斜	風状	人為		
59	B 7h5	N-64°-E	不整楕円形	0.37×0.33	60	直立	外傾	風状	不明		
60	B 7e6	-	円形	0.29×0.28	53	底	立	平坦	人為		
61	B 7d7	N-72°-W	楕円形	0.74×0.53	20	縦	斜	風状	人為		
62	B 7d7	N-75°-W	隅丸長方形	1.70×1.00	14	縦	斜	平坦	自然		
63	B 7d7	N-63°-E	不整楕円形	0.65×0.51	16	縦	斜	風状	自然		
64	B 7e8	N-58°-E	隅丸長方形	0.53×0.38	15	縦	斜	風状	人為		
65	B 7d3	N-86°-E	楕円形	0.86×0.28	26	外	傾	平坦	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	提 根		壁 面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 遺構番号、新旧関係(古→新)
				長径(軸)X短径(軸)(m)	深さ(cm)						
66	B 7 d3	N-26°-W	不整楕円形	0.44×0.41	20	外傾・緩斜	皿状	人為			
67	B 7 c6	N-42°-E	楕 円 形	0.70×0.46	20	直立・外傾	皿状	人為			
68	B 7 b6	N-74°-E	楕 円 形	0.96×0.67	27	外傾・緩斜	皿状	人為			
69	B 7 b7	N-58°-W	楕 円 形	1.14×0.60	22	外 傾	平坦	人為			
70	B 7 b7	N-16°-W	楕 円 形	1.29×0.85	30	外傾・緩斜	段差	人為			
71	B 7 b6	N-54°-E	不 定 形	1.48×1.24	60	外傾・緩斜	皿状	人為			
72	B 7 a6	N-24°-W	楕 円 形	1.14×0.61	31	緩 斜	皿状	人為			
73	B 7 a6	N-48°-W	楕 円 形	1.10×0.96	34	緩 斜	段差	人為			
74	A 7 j6	N-28°-E	不 定 形	1.52×0.86	36	緩 斜	皿状	人為			
75	A 7 h4	N-58°-E	不整楕円形	0.62×0.54	24	緩 斜	皿状	人為			
76	A 7 f4	-	円 形	0.62×0.62	10	緩 斜	皿状	自然			
77	B 7 a1	-	円 形	0.74×0.70	22	緩 斜	皿状	人為			
78	B 5 d7	N-61°-E	楕 円 形	1.11×1.00	10	緩 斜	皿状	人為			
79	B 5 g5	-	円 形	0.54×0.54	18	緩 斜	皿状	自然			
80	C 4 h9	N-83°-E	楕 円 形	1.28×1.09	24	緩 斜	段差	自然			
81	B 4 h9	-	円 形	0.86×0.79	10	緩 斜	皿状	自然			
82	B 4 h9	N-12°-E	楕 円 形	0.88×0.62	21	緩 斜	段差	自然			
83	B 4 e0	N-70°-E	不整楕円形	0.94×0.82	16	緩 斜	平坦	人為			
84	B 4 e0	N-15°-W	楕 円 形	0.96×0.80	10	緩 斜	平坦	自然			
85	B 4 19	N-65°-W	楕 円 形	1.66×1.34	14	緩 斜	平坦	人為			
86	B 4 j8	N-75°-E	楕 円 形	0.84×0.76	27	緩 斜	平坦	人為			
87	B 4 j0	N-52°-E	楕 円 形	1.57×1.28	18	緩 斜	凸凹	人為			
88	B 4 i8	-	円 形	0.76×0.76	8	緩 斜	皿状	自然			
89	B 4 g6	-	円 形	0.39×0.37	20	外傾・緩斜	皿状	人為			
90	B 4 h5	N-28°-W	隅丸長方形	2.34×1.99	40	外傾・緩斜	平坦	人為			
91	B 4 h5	-	円 形	1.10×1.08	28	緩 斜	平坦	自然			
92	B 4 h4	-	円 形	0.90×0.84	12	緩 斜	平坦	人為			
93	B 4 g3	N-35°-W	楕 円 形	0.94×0.42	34	緩 斜	凸凹	人為			
94	B 4 g3	N-40°-W	楕 円 形	0.64×0.36	36	緩 斜	段差	人為			
95	B 4 g4	N-35°-E	隅丸方形	0.38×0.38	12	緩 斜	皿状	自然			
96	C 4 b8	N-20°-E	楕 円 形	0.78×0.58	36	緩 斜	凸凹	人為			
97	C 4 a0	N-43°-W	不整楕円形	1.04×0.94	43	直立・緩斜	段差	人為			
98	B 4 g6	N-25°-W	楕 円 形	0.78×0.44	28	外傾・緩斜	皿状	自然			
99	B 4 f5	-	円 形	0.38×0.36	28	外 傾	皿状	自然			
100	B 4 g5	N-16°-W	楕 円 形	0.33×0.28	34	外 傾	皿状	人為			
101	B 7 d2	N-66°-E	楕 円 形	0.63×0.44	30	緩 斜	皿状	自然			
102	B 7 c2	N-72°-E	楕 円 形	0.42×0.34	18	緩 斜	皿状	自然			
103	A 7 j6	N-50°-E	不整楕円形	1.40×0.91	28	緩 斜	皿状	自然			
104	C 4 g5	N-20°-E	楕 円 形	0.98×0.90	24	緩 斜	段差	自然			
105	C 4 g5	N-70°-E	楕 円 形	0.56×0.46	26	緩 斜	皿状	自然			
106	C 4 g4	N-30°-W	楕 円 形	2.34×0.98	68	緩 斜	皿状	人為			
107	C 4 g6	N-30°-W	不整楕円形	1.46×1.08	20	緩 斜	平坦	人為			
108	C 5 c2	N-14°-W	楕 円 形	0.58×0.50	36	緩 斜	皿状	自然			
109	C 4 f7	N-20°-W	楕 円 形	0.44×0.38	20	緩 斜	皿状	自然			
110	B 4 f7	N-90°-E	楕 円 形	0.74×0.66	14	緩 斜	平坦	自然			S D10→本跡
111	C 5 f2	-	円 形	1.00×0.96	32	緩 斜	皿状	自然			
112	C 5 h3	N-30°-E	楕 円 形	0.94×0.60	12	緩 斜	平坦	人為	土師質土器		
113	C 5 i1	N-90°-E	隅丸長方形	1.10×0.80	52	直立・外傾	段差	自然			
114	C 4 e2	N-76°-E	楕 円 形	1.50×0.42	49	直立・緩斜	段差	人為			
115	C 4 e2	N-8°-W	楕 円 形	1.36×0.76	16	緩 斜	皿状	人為			
116	C 4 f2	N-0°-E	隅丸方形	0.88×0.82	51	直立・外傾	平坦	人為			
117	C 4 g2	N-81°-E	不 整 形	2.64×1.96	21	緩 斜	平坦	人為			
118	C 4 f1	N-0°-E	不整楕円形	1.50×1.40	11	緩 斜	皿状	人為			
119	C 3 f0	N-9°-E	不 定 形	1.40×1.12	50	外傾・緩斜	皿状	自然			
120	C 3 f0	N-52°-E	不 定 形	1.41×1.20	32	緩 斜	段差	人為			
121	C 3 f9	N-0°-E	楕 円 形	1.48×1.16	39	緩 斜	段差	人為			
122	C 3 g8	N-26°-W	不 定 形	1.46×1.00	25	緩 斜	凸凹	人為			
123	C 3 f6	N-38°-E	楕 円 形	0.71×0.60	22	外傾・緩斜	皿状	人為			

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底面	覆土	出土遺物	時代	備 考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(横)×短径(縦)(m)	深さ(cm)						
124	C 3 d0	N-33'-E	不定形	1.07×0.77	41	外傾・緩斜	段差	自然			
125	C 3 d9	-	円形	0.91×0.87	21	緩斜	平坦	自然			
126	C 3 d8	N-80'-E	不整楕円形	1.58×0.52	7	外傾・緩斜	平坦	人為			
127	C 3 d8	N-0'-E	楕円形	0.98×0.74	13	緩斜	平坦	人為			
128	C 3 d7	N-90'-E	不定形	1.36×1.05	9	緩斜	段差	自然			
129	C 3 d6	N-24'-W	楕円形	0.75×0.54	5	緩斜	平坦	自然			
130	C 3 c5	-	円形	1.02×1.00	13	外傾・緩斜	平坦	自然			
131	C 3 c5	-	円形	1.02×1.01	12	緩斜	平坦	自然			
132	C 3 b5	N-0'-E	楕円形	0.66×0.48	18	緩斜	直状	人為		SD10-本跡	
133	C 3 d4	N-76'-E	楕円形	1.14×0.80	11	外傾	平坦	自然			
134	C 3 d4	N-35'-E	不整長方形	0.79×0.70	13	外傾	平坦	自然	土師質土器		
135	B 4 11	N-90'-E	楕円形	0.66×0.35	9	緩斜	直状	自然			
136	C 3 g7	-	円形	0.96×0.90	8	緩斜	平坦	自然			
137	C 3 f6	N-43'-W	不整楕円形	1.11×0.71	8	緩斜	段差	自然			
138	C 4 h2	N-3'-W	不整楕円形	0.58×0.35	8	緩斜	平坦	自然			
139	C 4 h1	N-64'-E	不整楕円形	0.52×0.31	44	外傾・緩斜	平坦	人為			
140	C 3 g0	N-67'-E	不定形	0.56×0.41	37	外傾・緩斜	直状	人為			
141	C 4 b3	N-26'-W	不定形	1.44×0.92	12	緩斜	段差	自然			
142	C 3 j2	N-77'-E	不定形	2.16×1.00	14	緩斜	平坦	人為			
143	B 4 11	N-41'-E	長方形	1.38×0.91	20	緩斜	直状	人為			
144	C 3 f5	N-9'-E	楕円形	0.64×0.53	16	緩斜	直状	自然			
145	B 3 h0	N-68'-W	長方形	0.86×0.58	6	緩斜	直状	人為			
146	B 3 f6	-	円形	0.66×0.60	33	外傾	段差	自然			
147	B 3 f4	-	円形	0.51×0.48	26	外傾・緩斜	直状	人為			
148	B 3 f3	N-80'-E	楕円形	2.40×1.10	37	緩斜	平坦	人為			
149	C 2 d3	-	円形	0.72×0.68	11	緩斜	平坦	自然			
150	C 2 d2	N-22'-W	不定形	0.56×0.50	15	緩斜	直状	人為			
151	C 2 d1	-	円形	1.42×1.36	28	外傾・緩斜	平坦	人為			
152	C 1 d0	-	円形	1.52×1.48	23	緩斜	平坦	人為			
153	C 1 d0	-	円形	1.10×1.06	14	緩斜	直状	自然			
154	C 1 d0	-	円形	1.55×1.42	32	外傾	平坦	人為			
155	C 1 c1	-	円形	1.45×1.38	28	外傾・緩斜	平坦	自然			
156	C 2 c1	N-0'-E	不整長方形	3.26×0.80	18	緩斜	凸凹	人為			
157	C 1 c0	-	円形	1.53×1.40	22	緩斜	平坦	人為			
158	C 1 c0	-	円形	1.59×1.50	26	緩斜	平坦	人為			
159	C 1 c0	N-90'-E	不整円形	0.89×0.75	11	緩斜	平坦	人為			
160	C 1 e9	-	円形	1.11×1.10	13	緩斜	平坦	自然			
161	C 1 f8	-	円形	1.20×1.19	23	外傾・緩斜	平坦	人為			
162	C 1 f8	-	円形	1.19×1.11	44	直立・外傾	平坦	人為			
163	C 1 f8	-	円形	1.18×1.08	41	外傾	平坦	人為	土師質土器		
164	C 1 f8	N-60'-W	楕円形	1.17×1.05	25	外傾・緩斜	平坦	人為			
165	C 1 f0	N-14'-W	不定形	1.28×0.98	51	緩斜	段差	人為			
166	C 1 f0	-	円形	0.38×0.37	55	外傾	直状	人為			
167	C 1 g0	-	円形	1.04×0.95	15	外傾・緩斜	平坦	自然			
168	C 1 h9	-	円形	0.82×0.77	10	緩斜	平坦	自然			
169	C 1 h8	N-32'-W	楕円形	0.75×0.30	62	外傾・緩斜	直状	人為			
170	C 1 h8	N-31'-E	不整楕円形	1.55×1.40	31	緩斜	平坦	人為			
171	C 1 i9	-	円形	1.08×1.03	20	緩斜	平坦	人為			
172	C 1 i9	-	円形	1.40×1.34	51	外傾	平坦	人為			
173	C 1 i0	N-15'-W	楕円形	0.79×0.68	18	緩斜	段差	自然			
174	C 2 j2	-	円形	0.84×0.81	30	緩斜	段差	自然			
175	C 2 i7	N-56'-E	楕円形	1.32×0.82	14	緩斜	段差	自然			
176	C 2 i7	N-31'-W	不整楕円形	1.26×0.50	19	緩斜	直状	人為			
177	C 2 f6	N-23'-W	不整楕円形	1.07×0.54	12	緩斜	直状	人為			
178	C 2 f5	N-53'-E	不整楕円形	1.05×0.74	9	外傾	直状	自然			
179	C 2 f4	-	円形	1.02×1.00	20	緩斜	直状	自然			
180	C 1 h0	N-20'-E	楕円形	0.65×0.48	15	外傾	直状	人為			
181	C 1 d0	N-24'-W	[円形]	1.10×1.10	24	外傾	平坦	人為			

番号	位置	長短方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出土遺物	時代	備 考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(幅)(m)	深さ(cm)						
182	C 1e9	N-55°-E	[円形]	1.20×0.52	36	縦	斜	段差	自然		
183	C 1e9	N-22°-W	[円形]	0.72×0.47	32	外傾・縦斜	段差	自然			
184	C 1e0	N-45°-W	楕円形	0.42×0.28	8	縦	斜	皿状	人為		
185	B 1h5	N-90°-E	楕円形	0.96×0.87	42	外	傾	皿状	人為		
186	C 3h1	N-58°-W	不定形	0.65×0.43	28	外	傾	平坦	不明		
187	C 3i1	N-47°-E	不定形	0.50×0.45	26	外	傾	平坦	不明		
188	C 3i5	N-77°-W	楕円形	1.59×1.02	42	外	傾	平坦	人為		SD 15→本跡
189	D 3e2	N-46°-E	不定形	1.49×1.25	18	縦	斜	平坦	人為		
190	D 3e2	N-21°-W	不定形	1.59×0.62	10	縦	斜	皿状	人為		
191	D 3e3	N-56°-W	不定形	0.93×0.87	22	縦	斜	皿状	自然		
192	D 3e3	N-15°-E	不整楕円形	1.05×0.92	19	縦	斜	平坦	人為		
193	D 3e3	N-50°-E	不整楕円形	1.31×1.11	9	縦	斜	皿状	人為		
194	D 3e3	N-75°-E	楕円形	0.85×0.75	13	外傾・縦斜	平坦	人為			
195	D 3e4	N-0°-E	不整楕円形	1.61×0.82	9	縦	斜	平坦	人為		
196	D 3d2	N-2°-W	不定形	1.23×0.93	29	縦	斜	段差	人為		
197	D 3d2	N-89°-W	隅丸長方形	3.96×0.80	16	縦	斜	平坦	自然		本跡→SK198
198	D 3d3	-	円形	1.14×1.04	16	外傾・縦斜	段差	人為			SK7→本跡
199	D 3d3	N-25°-W	不定形	0.80×0.76	24	縦	斜	皿状	人為		SK215→本跡, SK226→本跡
200	D 3d4	N-9°-W	隅丸長方形	(3.29)×0.71	12	縦	斜	平坦	自然		本跡→SK215, 本跡→SK226
201	D 3d4	N-3°-E	隅丸長方形	1.58×(0.80)	7	縦	斜	平坦	人為		
202	D 3e4	N-2°-E	隅丸長方形	1.52×(0.73)	6	縦	斜	平坦	自然		
203	D 3f4	-	円形	1.02×0.94	10	外傾・縦斜	平坦	自然			
204	D 3f5	-	円形	0.78×0.72	21	縦	斜	段差	自然		
205	D 3f5	N-24°-W	隅丸長方形	2.56×1.34	18	縦	斜	平坦	自然		SK206→本跡
206	D 3e5	N-17°-W	隅丸長方形	(2.60)×0.74	14	縦	斜	平坦	自然		本跡→SK205
207	D 3e5	N-19°-W	不整楕円形	0.60×0.46	30	外	傾	段差	人為		
208	D 3c3	N-0°-E	不整円形	0.98×0.94	16	縦	斜	平坦	人為		
209	D 3c4	N-0°-E	隅丸長方形	(3.52)×0.96	23	縦	斜	皿状	人為		SK216→本跡→SD21
210	D 3c5	N-25°-W	不定形	1.02×0.80	7	縦	斜	平坦	人為		SK218→本跡
211	D 3c3	N-0°-E	隅丸長方形	1.46×0.76	14	縦	斜	平坦	人為		SD21→本跡
212	C 3i1	N-45°-W	楕円形	0.38×0.23	23	直	立	平坦	人為		
213	D 3b1	N-13°-E	隅丸長方形	0.74×0.68	8	縦	斜	平坦	自然		
214	D 3b1	N-80°-E	楕円形	0.58×0.52	10	縦	斜	皿状	自然		
215	D 3d4	N-81°-E	隅丸長方形	3.02×0.86	14	縦	斜	平坦	人為		SK200・216→本跡→SK199
216	D 3d4	N-19°-W	不定形	4.58×1.20	16	縦	斜	平坦	自然		SD21, SK217→本跡→SK209・215
217	D 3d4	N-0°-E	不整円形	1.10×0.87	16	縦	斜	平坦	人為		本跡→SK216
218	D 3d5	N-8°-E	隅丸長方形	4.48×1.35	23	縦	斜	平坦	人為		本跡→SK210
219	D 2b7	N-74°-E	楕円形	1.22×0.94	16	縦	斜	凸凹	自然		
220	C 2j9	N-16°-E	隅丸長方形	0.96×0.90	12	縦	斜	平坦	人為		
221	C 3h2	N-13°-W	隅丸長方形	1.16×0.66	16	縦	斜	皿状	不明		
222	C 3j6	N-20°-W	不整長方形	1.14×1.04	32	縦	斜	段差	人為		
223	D 3a1	-	円形	0.70×0.68	38	縦	斜	皿状	自然		
224	C 3j4	N-5°-W	隅丸長方形	1.19×0.62	20	直	立	傾斜	平坦	自然	
225	D 2b3	N-90°-E	隅丸長方形	1.34×1.04	8	縦	斜	平坦	人為		
226	D 3d3	N-0°-E	不定形	1.10×1.02	19	縦	斜	皿状	自然		SK200→本跡→SK199

傾斜部、土層割
上部、奥化部

3 遺構外出土遺物 (第17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27図)

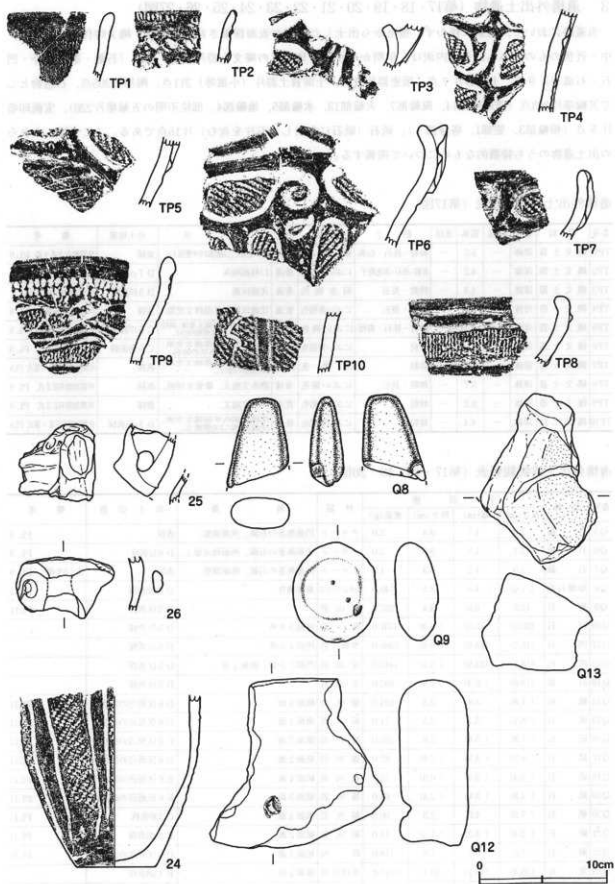
当遺跡において、遺構に伴わず、攪乱から出土した遺物や表面採集された遺物は、縄文時代、奈良時代、中・近世のものがある。その内訳は、早期から中期後葉までの縄文土器片86点、石器(石鏃・磨製石斧・凹石・石皿等)9点、土師器片7点、須恵器片2点、土師質土器片(小皿等)211点、陶器片205点、石遺物として五輪塔片263点(空風輪部14, 風輪部7, 火輪部13, 水輪部5, 地輪部4, 部位不明の五輪塔片220), 宝篋印塔片5点(相輪部3, 笠部1, 塔身部1), 砥石(砥石に転用した石片を含む)片15点である。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。

遺構外出土遺物観察表 (第17図)

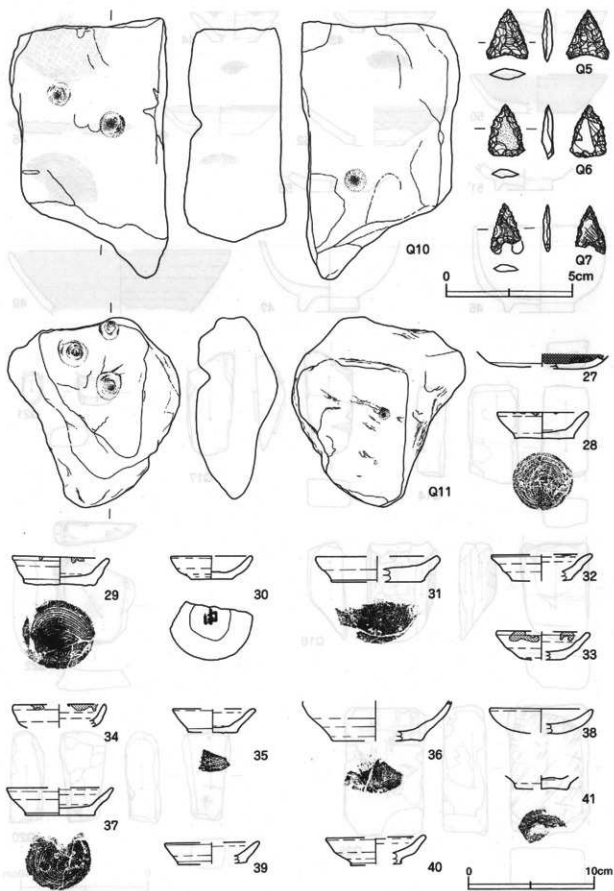
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	—	5.5	—	砂粒・長石・石英	楊灰色	普通	熱水文施文, 口縁部はややくぼむ。表採	早期熱水文土器 PL.9	
TP2	縄文土器	深鉢	—	4.2	—	砂粒・長石・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	口唇部削み	D7c0表採	前期浮島式 PL.9
TP3	縄文土器	深鉢	—	4.3	—	砂粒・長石	明赤褐色	普通	沈線区画	D57表採	中期加曾利EⅡ式
TP4	縄文土器	深鉢	—	8.0	—	砂粒・長石	にぶい赤褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填	表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP5	縄文土器	深鉢	—	5.4	—	砂粒・長石・雲母	にぶい褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填, 沈線区画文, 角状の突起。	C577表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP6	縄文土器	深鉢	—	10.1	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填, 沈線区画文, 角状の突起。	C578表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP7	縄文土器	深鉢	—	5.5	—	砂粒	黒褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填, 沈線区画文。	表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP8	縄文土器	深鉢	—	5.7	—	砂粒・長石	にぶい褐色	普通	熱水文施文。隆帯を削削。	表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP9	縄文土器	深鉢	—	8.2	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	熱水文施文。	表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9
TP10	縄文土器	深鉢	—	4.4	—	砂粒	にぶい黄褐色	普通	沈線区画内単節縄文充填, 沈線区画にややくぼむ。	D3d5表採	中期加曾利EⅡ式 PL.9

遺構外出土遺物観察表 (第17・18・19・20図)

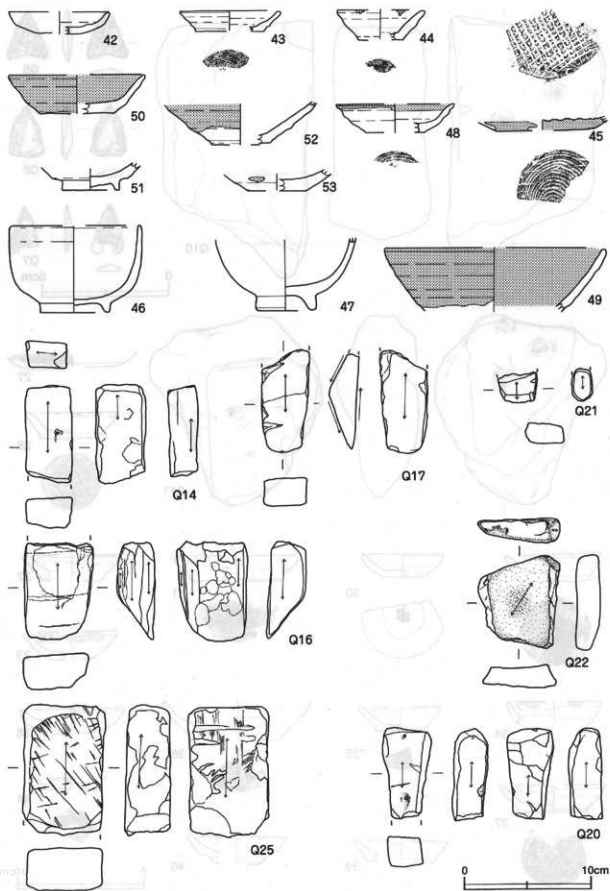
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5	石鏃	2.0	1.7	0.4	2.0	チャート	凹基無茎の石鏃。両面調整。	表採	PL.9
Q6	石鏃	2.1	1.5	0.3	2.0	チャート	平基無茎の石鏃。両面周辺加工。	D612表採	PL.9
Q7	石鏃	2.0	1.2	0.3	1.5	チャート	凹基無茎の石鏃。両面調整。	表採	かえり欠損 PL.9
Q8	磨製石斧	(7.0)	4.8	2.5	148.0	ホルンfels	基部残存	D6c2表採	PL.11
Q9	凹石	12.8	6.6	3.4	237.0	安山岩		D5区表採	PL.11
Q10	凹石	(20.8)	(12.6)	(8.3)	3337.0	砂岩	凹部3か所	D5区表採	
Q11	凹石	(15.2)	(13.6)	(6.6)	1380.0	雲母片岩	凹部4か所	D5区表採	
Q12	凹石	(18.5)	(13.9)	(5.5)	1440.0	安山岩	凹部1か所。砥面1面。	D5区表採	
Q13	石皿	(13.6)	(9.3)	(7.6)	892.0	安山岩		D5区表採	
Q14	砥石	(7.8)	3.8	2.5	124.0	凝灰岩	砥面4面	D6区周辺の攪乱中	PL.11
Q15	砥石	(8.1)	3.1	2.5	71.0	凝灰岩	砥面4面	D6区周辺の攪乱中	PL.11
Q16	砥石	(7.8)	(5.6)	2.5	165.0	凝灰岩	砥面7面	D6区周辺の攪乱中	PL.11
Q17	砥石	(8.2)	(3.9)	(2.6)	87.0	凝灰岩	砥面2面	D6区周辺の攪乱中	PL.11
Q18	砥石	(3.4)	(3.4)	(0.9)	15.0	凝灰岩	砥面1面	E6区周辺の攪乱中	PL.11
Q19	砥石	(4.8)	(3.9)	(2.4)	66.0	凝灰岩	砥面3面	E6区周辺の攪乱中	PL.11
Q20	砥石	(7.3)	4.0	2.3	90.0	凝灰岩	砥面4面	C370表採	PL.11
Q21	砥石	(2.4)	(3.2)	(1.5)	14.0	凝灰岩	砥面2面	E5a8表採	PL.11
Q22	砥石	7.5	6.5	1.8	119.0	砂岩	砥面1面	D6区周辺の攪乱中	PL.11
Q23	砥石	(26.4)	(15.1)	10.1	4745.0	雲母片岩	砥面1面	E4a8表採	
Q24	砥石	(8.6)	(9.4)	(3.5)	326.0	花崗岩	部位不明	D6区周辺の攪乱中	五輪塔を転用か PL.11
Q25	砥石	(10.5)	6.6	3.4	425.0	砂岩	使用面3面	D5区表採	PL.11



第17图 濠槽外出土遗物实测图(1)

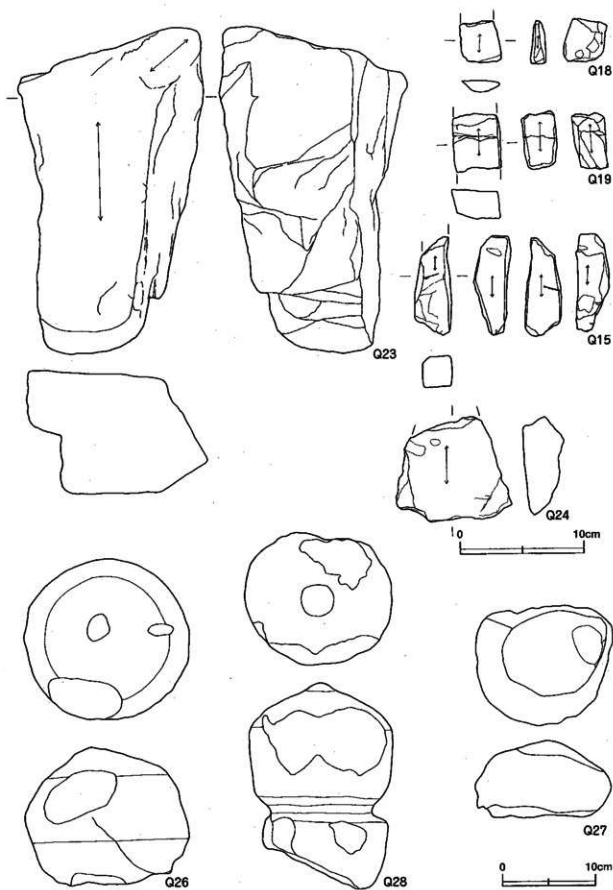


第18图 遺構外出土遺物実測図(2)

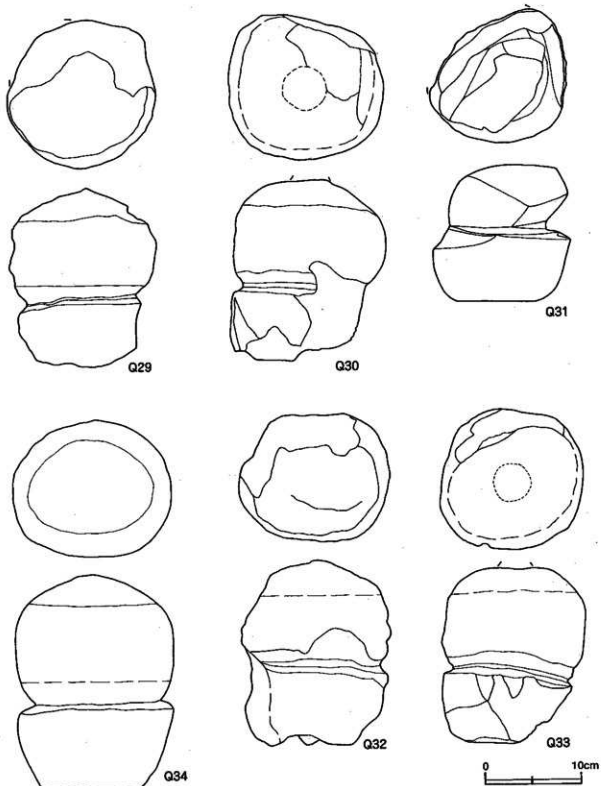


第19图 遺構外出土遺物実測図(3)

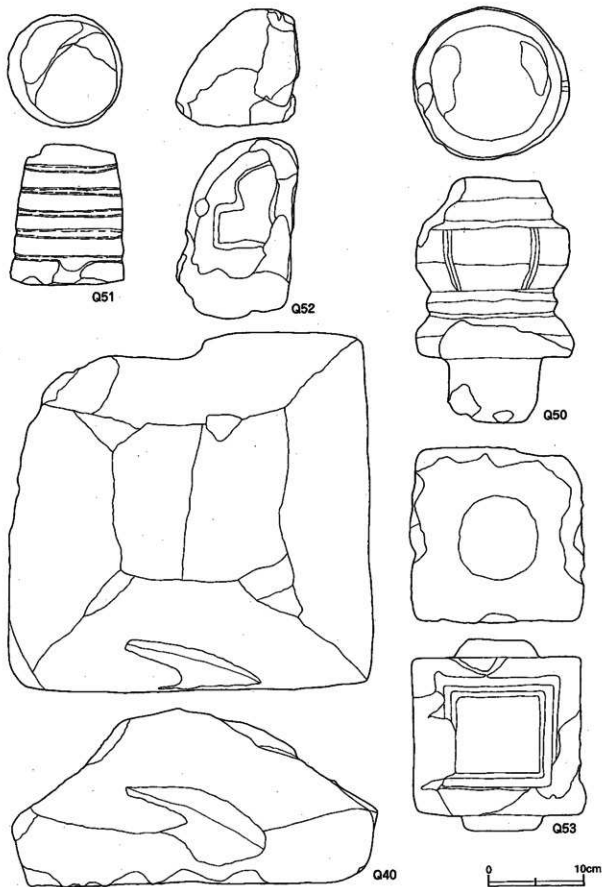
中国考古学 第10卷 第1期 1987年



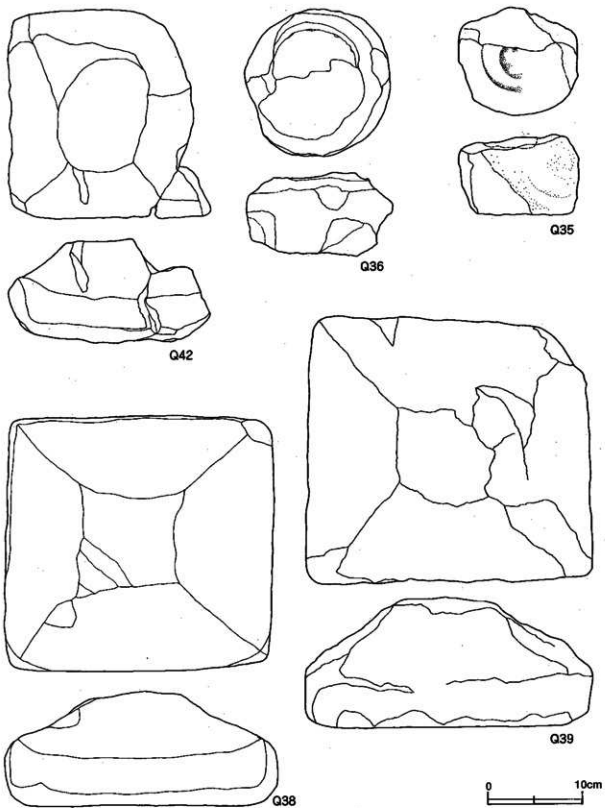
第20图 遺構外出土遺物実測図(4)



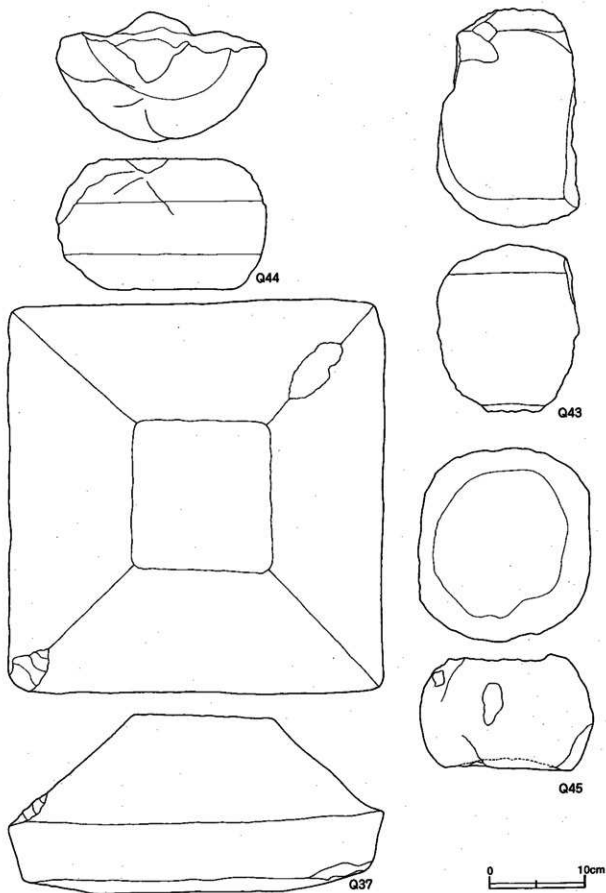
第21圖 遺構外出土遺物実測図(5)



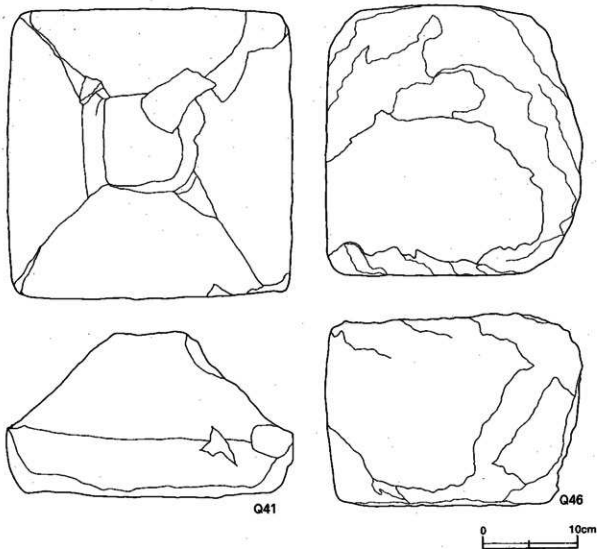
第22图 遺構外出土遺物実測図(6)



第23圖 遺構外出土遺物実測図(7)



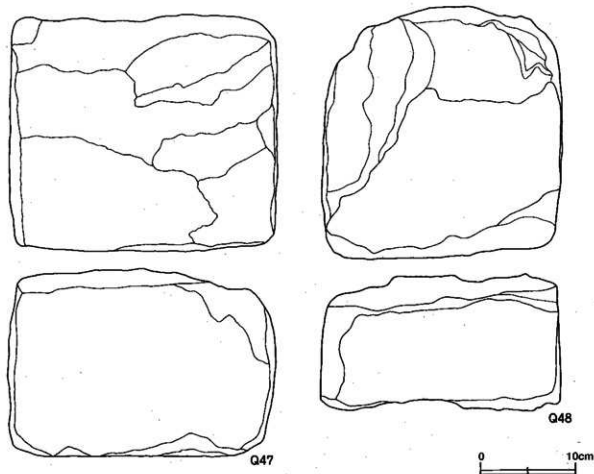
第24図 遺構外出土遺物実測図(8)



第25図 遺構外出土遺物実測図(9)

遺構外出土遺物観察表 (第17・18図)

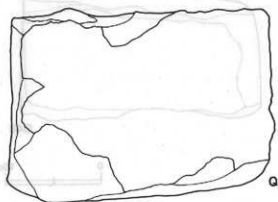
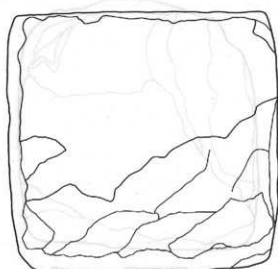
番号	種別	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
24	縄文土器 深鉢	(14.2)	(13.6)	6.3	砂粒	にぶい黄褐色	普通	単筋縄文。沈線区画による彫垂文。	加曾利EⅡ式期。B1h5表採。	50% PL 8
25	縄文土器 深鉢	—	6.2	—	砂粒	にぶい褐色	普通	渦状の沈線文	表採	注口部, 5%
26	縄文土器 深鉢	—	4.7	—	砂粒	にぶい褐色	普通	楕状把手	表採	5%
27	土師器 坏	(10.4)	(1.1)	7.0	砂粒・長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	底部一方向のヘラ削り。内面ヘラ磨き。	E 6区周辺の攪乱中	内面黒色処理, 20%
28	土師質土器 小皿	7.4	2.1	4.7	砂粒・長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕, 内面ナデ。	D 6区周辺の攪乱中	口縁部塗埋付着, 100% PL 7
29	土師質土器 小皿	7.7	2.2	5.7	砂粒・長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕, 内面ナデ。	D 6区周辺の攪乱中	口縁部塗埋付着, 100% PL 7
30	土師質土器 小皿	(6.7)	1.8	(3.3)	砂粒・石英	にぶい橙褐色	普通	底部外面回転糸切り痕	D 6c1表採	底部外面塗着[甲]*, 60% PL 7
31	土師質土器 小皿	9.9	2.1	7.2	砂粒	にぶい黄褐色	普通	底部外面回転糸切り痕	D 5区周辺の攪乱中	20%



第26図 遺構外出土遺物実測図(加)

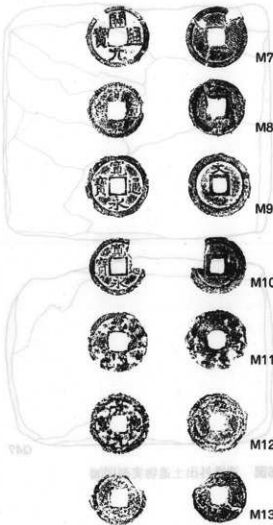
遺構外出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法	出土位置	備考
32	土師質土器	小皿	8.0	2.1	4.7	砂粒・雲母	明赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D5区周辺の攪乱中	35%
33	土師質土器	小皿	7.5	2.3	3.7	砂粒・長石・雲母	明赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D5区周辺の攪乱中	口縁部油漣付着, 30%
34	土師質土器	小皿	7.5	1.9	—	砂粒・長石	褐灰色	普通	内・外面ロクロナデ	D5区周辺の攪乱中	口縁部油漣付着, 20%
35	土師質土器	小皿	6.6	2.9	4.0	砂粒・石英・雲母	黒褐色	不良	底部外面回転糸切り痕	E6区周辺の攪乱中	30%
36	土師質土器	小皿	11.9	3.2	7.2	雲母・赤色粒子	にじみ赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕	E6区周辺の攪乱中	底部外面へラ記号 「 」*, 60%
37	土師質土器	小皿	8.4	2.3	5.5	砂粒・雲母	黒色	不良	底部外面回転糸切り痕	D6区周辺の攪乱中	30%
38	土師質土器	小皿	8.3	2.0	—	砂粒・雲母	黒色	不良	内・外面ロクロナデ	D6区周辺の攪乱中	九底, 40%
39	土師質土器	小皿	7.6	1.8	5.5	砂粒・雲母	にじみ赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ	D6区周辺の攪乱中	底部やや突出, 20%
40	土師質土器	小皿	8.0	2.3	4.1	砂粒・雲母・長石	にじみ赤褐色	普通	内・外面ロクロナデ。 底部回転糸切り痕。	D6区周辺の攪乱中	20%
41	土師質土器	小皿	—	1.1	4.4	砂粒・雲母	にじみ赤褐色	普通	底部外面回転糸切り痕	D6区周辺の攪乱中	底部やや突出, 30%



Q49

0 10cm



M7

M8

M9

M10

M11

M12

M13

0 5cm

第27図 遺構外出土遺物実測図(1)

遺構外出土遺物観察表 (19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
42	土師質土器	小皿	8.1	1.7	3.4	砂粒・雲母	暗赤褐色	不良	底部外面回転糸切り痕	表採	口縁部油漣付着, 15%
43	土師質土器	小皿	8.1	1.7	5.4	砂粒・長石・石英・雲母	黒色	普通	底部外面回転糸切り痕	E 5a8表採	20%
44	土師質土器	小皿	7.0	2.4	—	砂粒・長石・雲母	暗赤褐色	良好	内・外面口クロナデ	E 5a7表採	丸底, 40%
45	陶器	鉢皿	—	(1.1)	7.6	砂粒	灰色 明緑灰色	良好	底部外面回転糸切り痕 底部内・外面灰釉施軸	D 5区周辺の覆乱	古瀬戸後期, 20%
46	陶器	丸碗	10.6	6.9	5.5	砂粒	灰色 浅黄灰色	普通	削り出し高台。高台部を除き, 灰釉施軸。	D 6区周辺の覆乱中	瀬戸・美濃系, 70% PL. 8
47	陶器	丸碗	11.2	(5.6)	4.9	砂粒	灰色 緑灰色	良好	高台部発付無軸	E 6区周辺の覆乱中	瀬戸・美濃系, 30% PL. 8
48	陶器	縁輪小皿	9.5	2.4	4.7	砂粒・雲母・黒色粒子	灰色 緑灰色	良好	口縁部内・外面灰釉施軸	E 6区周辺の覆乱中	古瀬戸後期, 20% PL.10
49	陶器	平碗	17.6	5.0	—	砂粒・雲母	灰白色 オリーブ	普通	口縁部・体部内・外面灰釉施軸	C 415表採	古瀬戸後期, 30% PL.10
50	陶器	灰輪小皿	(11.0)	3.1	(6.0)	砂粒・雲母・長石	灰白色 オリーブ	普通	底部を除き, 内・外面灰釉施軸。内・外面黒ねじり痕。	C 415表採	古瀬戸後期, 20% PL.10
51	陶器	天目茶碗	(7.9)	(1.8)	4.7	砂粒	灰色 黒褐色	普通	体部内面鉄釉施軸	E 5b8表採	瀬戸・美濃系 (大塚期?), 20%

遺構外出土遺物観察表 (第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法	出土位置	備考
52	陶器	平碗	(12.2)	(3.2)	(4.8)	砂粒	黄灰色 緑灰色	普通	高台部削り出し。体部内・外面灰輪軸。	C 3区表探	古瀬戸後期, 30% PL10
53	陶器	緑釉小皿	—	(1.6)	4.8	砂粒・黒色粒子	黄灰色 オリーブ	良好	底部回転糸切り直	D 2区周辺の擾乱中	古瀬戸後期, 20%
54	陶器	瓶	(13.4)	(6.0)	11.5	砂粒	灰青色	普通	体部内・外面輪軸施	E 6区周辺の擾乱中	瀬戸・美濃系, 10% PL 8
55	陶器	染付丸碗	9.6	(3.5)	—	砂粒	白灰色 白色	普通	体部内・外面透明輪軸	表探	肥前系, 30% PL10
56	陶器	丸碗	—	(1.9)	4.0	砂粒	灰黄色 浅黄	普通	高台部を除き, 灰輪軸	表探	瀬戸・美濃系, 20% PL10
57	陶器	瓶	—	(2.9)	8.0	砂粒	灰黄色 暗オリーブ	普通	体部外面灰輪軸	表探	瀬戸・美濃系, 10% PL10
58	陶器	壺	—	(4.8)	15.9	砂粒	褐色	普通	底部重ね焼き痕	表探	常滑, 10% PL10

遺構外出土遺物観察表 (第20・21・23・24図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)							材質	特徴	出土位置	備考		
			全高	空輪高	風輪高	ホノ高	空輪径	びね径	風輪径					ホノ径	
Q26	五輪塔	空風輪	(15.2)	(15.2)	—	—	(17.7)	—	—	—	—	花崗岩		D 5区表探	空風輪空輪部の90%
Q27	五輪塔	空輪部	(8.4)	(8.4)	—	—	14.9	—	—	—	—	花崗岩		D 5区表探	空風輪空輪部の約4%
Q28	五輪塔	空風輪	22.4	13.6	(8.8)	—	15.7	11.0	(13.6)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	C 6区表探	70%	PL11
Q29	五輪塔	空風輪	19.2	11.9	7.3	—	16.0	11.5	(12.4)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	D 5区表探	80%	PL11
Q30	五輪塔	空風輪	(19.4)	11.3	(6.7)	1.4	16.2	(12.9)	(13.6)	(5.7)	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	D 5区表探	60%	
Q31	五輪塔	空風輪	(14.7)	(6.7)	8.0	—	(15.5)	10.0	(11.7)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	D 5区表探	40%	
Q32	五輪塔	空風輪	(19.8)	(11.5)	(8.7)	—	(15.8)	(12.3)	(14.5)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	D 5区表探	80%	
Q33	五輪塔	空風輪	(18.5)	(10.5)	(7.6)	—	(15.1)	(12.3)	(13.5)	—	花崗岩	空輪部と風輪部とのびね不明	D 5区表探	60%	
Q34	五輪塔	空風輪	(22.9)	(13.7)	(8.7)	—	16.7	13.3	16.3	—	花崗岩		D 6区周辺の擾乱中	80%	PL11
Q35	五輪塔	空風輪	(8.3)	—	8.3	—	—	—	12.8	—	花崗岩		D 5区周辺の擾乱中	空風輪空輪部の70%	
Q36	五輪塔	風輪部	9.0	—	9.0	—	—	10.2	15.7	—	花崗岩		D 5区周辺の擾乱中	空風輪空輪部の80%	
Q43	五輪塔	空輪	14.2	(13.4)	—	—	(20.5)	—	—	—	花崗岩		D 5区表探	空風輪空輪部の80%	

遺構外出土遺物観察表 (第22・23・24・25図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)							材質	特徴	出土位置	備考		
			全高	胴部高	軒厚	軒反厚	上面幅	軒幅	ホノ深					ホノ径	
Q37	五輪塔	火輪	19.1	11.5	6.2	7.5	14.6	42.0	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 6区周辺の擾乱中	100%	PL11
Q38	五輪塔	火輪	12.2	7.2	3.9	7.0	9.3	28.9	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 6区周辺の擾乱中	100%	PL11
Q39	五輪塔	火輪	14.0	(9.0)	(4.5)	(5.5)	10.0	30.5	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 5区表探	90%	PL11
Q40	五輪塔	火輪	19.0	(8.5)	5.4	7.5	(13.2)	(38.7)	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 5区表探	90%	PL12
Q41	五輪塔	火輪	17.2	11.2	4.9	7.0	7.5	(30.4)	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 5区表探	95%	PL12
Q42	五輪塔	火輪	(11.1)	6.2	4.9	6.5	(7.0)	(21.6)	—	—	花崗岩	軒口外縁、軒の上部がわずかに欠ける。	D 5区表探	70%	

遺構外出土遺物観察表 (第24図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)				材質	特徴	出土位置	備考			
			全高	高	上面径	最大径					下面径		
Q44	五輪塔	水輪	14.2	—	(14.0)	(22.2)	—	(13.8)	花崗岩		D 5区表探	50%	
Q45	五輪塔	水輪	12.3	—	(10.5)	—	20.4	15.0	花崗岩		D 5区表探	90%	PL12

遺構外出土遺物観察表 (第25・26・27図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)			材質	特徴	出土位置	備考
			全高	上面幅	下面幅				
Q46	五輪塔	地輪	20.5	(23.5)	(22.5)	花崗岩		D 6区周辺の擾乱中	80%
Q47	五輪塔	地輪	20.0	26.6	28.3	花崗岩		D 5区表採	70% PL12
Q48	五輪塔	地輪	(14.4)	24.8	(27.4)	花崗岩		C 613表採	70%
Q49	五輪塔	地輪	20.6	27.2	28.8	花崗岩		D 5区表採	95%

遺構外出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)											材質	特徴	出土位置	備考		
			全高	宝珠高	上縁高	九輪高	下縁高	伏縁高	小ノ径	宝珠径	上縁径	九輪径	下縁径					伏縁径	小ノ径
Q50	宝篋印塔	相輪部	—	—	—	(5.0)	16.3	4.5	7.0	—	—	13.2	16.3	17.0	10.6	花崗岩		D 5区表採	40% PL12
Q51	宝篋印塔	相輪部	(15.2)	—	—	(15.2)	—	—	—	—	—	12.5	—	—	—	花崗岩		D 5区表採	20% PL12

遺構外出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)											材質	特徴	出土位置	備考		
			全高	上段高	側縁高	軒高	下段高	上面幅	側縁幅	軒幅	下面幅	小ノ径	小ノ径						
Q52	宝篋印塔	笠部	(19.4)	—	11.8	4.5	(3.1)	—	11.5	(13.0)	—	—	—	—	—	花崗岩	馬耳状の溝彫突起部	D 5区表採	笠部100% PL12

遺構外出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	部位	計測値 (cm)							材質	特徴	出土位置	備考
			全高	基部高	意高	上面幅	下面幅	意幅	小ノ径				
Q53	宝篋印塔	塔身部	20.5	16.9	11.6	18.0	17.5	13.1	9.0	花崗岩		D 5区表採	90% PL12

遺構外出土遺物 (第27図)

番号	銭名	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		銭径 (cm)	穿孔幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
M7	開元通寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.0	銅	背面無文	D 6区周辺の擾乱中	95% PL10
M8	寬永通寶	2.3	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文。初鑄年元禄10年 (1697年)	E 6区周辺の擾乱中	100% PL10
M9	寬永通寶	2.5	0.6×0.6	0.1	2.5	銅	裏に「文」。初鑄年元禄10年 (1697年)	E 6 c7周辺の表採	100% PL10
M10	寬永通寶	2.3	0.6×0.6	0.1	2.0	銅	背面無文。初鑄年元禄10年 (1697年)	E 6 c7周辺の表採	70% PL10
M11	元□□□	2.4	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文	D 5区周辺の擾乱中	95%
M12	景元口寶	2.4	0.7×0.7	0.1	2.0	銅	背面無文	D 5区周辺の擾乱中	90%
M13	寬永通寶	2.1	0.7×0.7	0.1	1.8	銅	背面無文。初鑄年元禄10年 (1697年)	D 6区周辺の擾乱中	70%

第4節 ま と め

今回の調査で当遺跡から確認された遺構は、堅穴住居跡1軒、溝跡21条、地下式墳1基、井戸跡3基、土坑墓2基、土坑224基である。ここでは、各時代の主な遺構と遺物について概要を述べるとともに、当遺跡で確認された中世の遺構と当遺跡付近に所在したとの記録が残る大聖寺¹¹²⁾との関係を調査結果や関連資料から考察し、まとめたい。

1 縄文時代

縄文時代の遺構は確認できなかった。遺構に伴わない遺物で確認できた時期は、縄文早期、前期(浮島式期)、中期(加曾利EⅡ～Ⅲ式期)である。以上のことから、早期から中期後葉にかけて生活の場として利用されていたことが窺える。

2 奈良時代

今回の調査で確認できた遺構は、8世紀後葉の住居跡1軒(第1号住居跡)だけであるが、当遺跡の東縁約300m付近には奈良・平安時代の西平塚シタ遺跡³⁾が所在し、本跡は遺跡との関連も考えられる。

3 中・近世

中世の遺構としては、溝跡5条、地下式墳1基、井戸跡3基、土坑墓2基が確認できた。溝跡の時期は、形状や出土遺物(土師質土器小皿、古瀬戸平碗、古瀬戸花瓶、五輪塔、宝篋印塔)から14世紀代から16世紀前半と考えられ、土坑墓の時期も、出土遺物(板碑、古銭)から中世以降と考えられる。このほか、確認された224基の土坑の中にも、骨片が検出されて土坑墓の可能性のあるものが存在する。また、表面採集や撿乱から検出された遺物の中にも中世と考えられるものが数多く出土している。土師質土器の小皿は、15世紀代を中心として14世紀後半から16世紀代にかけてのものが検出され、陶器では、古瀬戸の卸皿、緑釉小皿、平碗等が出土し、古瀬戸後期の15世紀代のものが多くみられる。また、石造物としては、五輪塔片と宝篋印塔片が出土している。時期を判断できる部位が残存しているものとして、15世紀初めから中葉の五輪塔空風輪部1点、15世紀中葉から後葉の五輪塔空風輪部1点、火輪部3点、15世紀末葉から16世紀初めの五輪塔空風輪部と火輪部が各3点、16世紀初めから中葉の五輪塔空風輪部1点、16世紀中葉から後葉の五輪塔空風輪部1点、16世紀代と考えられる五輪塔空風輪部1点、宝篋印塔の相輪部1点、笠部1点、塔身部1点であるが、いずれも風化が進んでいる。

以上のように、14世紀代から16世紀後葉までの寺や墓域に関連する遺物の出土が多く、当遺跡は寺院や墓域の可能性があり、内耳鍋等の生活に密着した遺物がほとんど出土していない。

【小田孝朝下文】¹⁾によると、南北朝時代の応安7年(1374年)、小田氏の当主小田孝朝が小田四ヶ寺を設けたのを機に、現在の土浦市水国に所在していた今泉寺を羽黒山今泉院大聖寺と改め、寺地を田中莊平塚(現在のつくば市西平塚)に移転したとされる。さらに『亮恵僧正門弟名帳』⁴⁾には、大永6年(1526年)に常陸国水国今泉院大聖寺として再び土浦市水国に戻ったことが記されている。また、『葛城村史』にも「大聖寺が西平塚にありしことは、貞享絵図に明示されるを以て疑うべくもあらざれど、之を水国に遷されたる年代に至っては詳ならず。其移転に就ては、平塚の人も亦水国の人も、かかる俗説あるを知れど、今の水国の大聖寺が平塚にありしそれなりしかは、素より知るものあらざるなり。…」との記述がある。さらに、『葛城村史』に掲載されている貞享絵図『刈間・平塚・面野井・酒丸・高田村の野境争い裁許絵図』貞享5年(1688年)⁵⁾と

現況図を比較してみると、当遺跡の調査区域内に「大聖寺内畑」という文字と建物の絵が確認でき、堂宇の存在が想定される。

しかし、今回の調査では、攪乱が激しいため大聖寺の存在を直接的に物語る遺構は確認できなかったが、遺物の時期や絵図の位置や時期ではかなり合致している部分があり、大聖寺が当調査区域に隣接して所在した可能性は否定できない。

註)

- 1) 『小田孝朝下文』 羽黒山大聖寺所蔵
- 2) 千勝義重 『葛城村史』 1990年
- 3) つくば市教育委員会 『つくば市遺跡地図』 2001年7月
- 4) 『亮恵僧正門弟名板』 京都府東寺所蔵
- 5) 谷田部の歴史編さん委員会 『谷田部の歴史』 1973年9月

写 真 图 版



完掘状況（西から）



完掘状況（東から）

PL 2



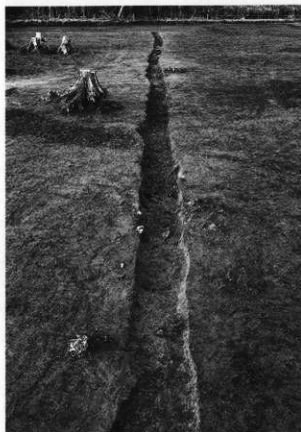
第1号住居跡完掘状況



第1号住居跡遺物出土状況



第1号住居跡遺物出土状況



第12号清跡完掘狀況



第13号清跡完掘狀況



第14号清跡完掘狀況



第8号清跡遺物出土狀況

PL 4



第1号地下式填完掘状況



第1号井戸跡完掘状況



第2号井戸跡完掘状況

第21号土坑遺物出土状況



第35号土坑完掘状況
(第7号溝跡と重複)



土坑集中区、
第7・8・9号溝跡完掘状況





立石（お羽黒様）確認状況



立石（天神様）確認状況



五輪塔・宝篋印塔集積状況



遺構外-28



遺構外-29



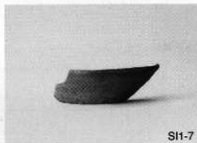
遺構外-30



SD15-23



SI1-9



SI1-7



SI1-4



SI1-3



SI1-13



SI1-14



SI1-2

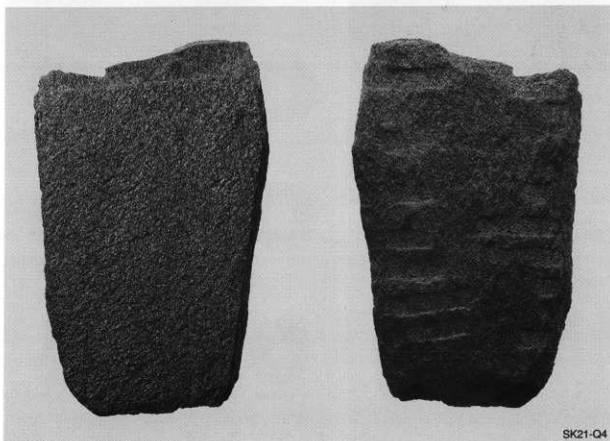
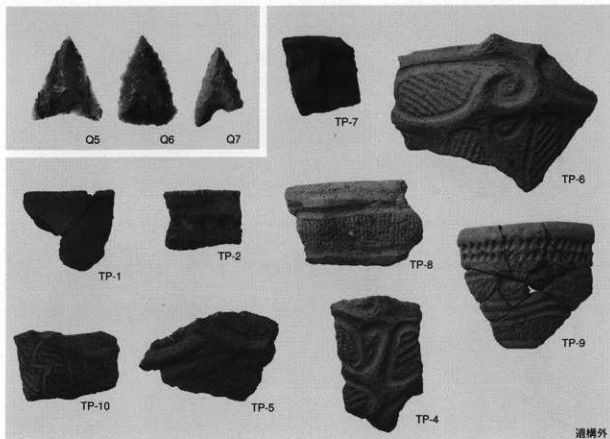


SI1-16



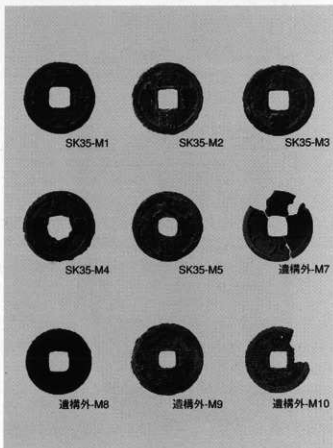
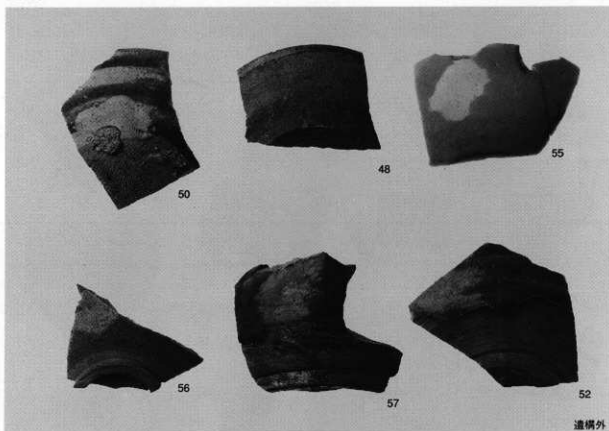
SD6-20



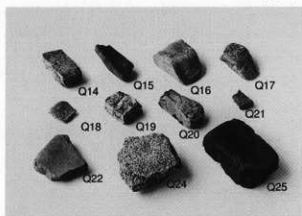
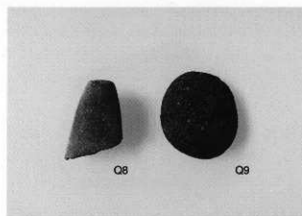


第21号土坑・遺構外出土遺物

SK21-Q4



第1号清跡・第35号土坑・遺構外出土遺物





Q40



Q41



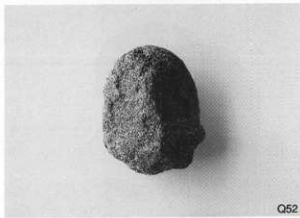
Q45



Q47



Q51



Q52



Q50



Q53

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡

平成 14 (2002) 年 3 月 21 日 印刷

平成 14 (2002) 年 3 月 25 日 発行

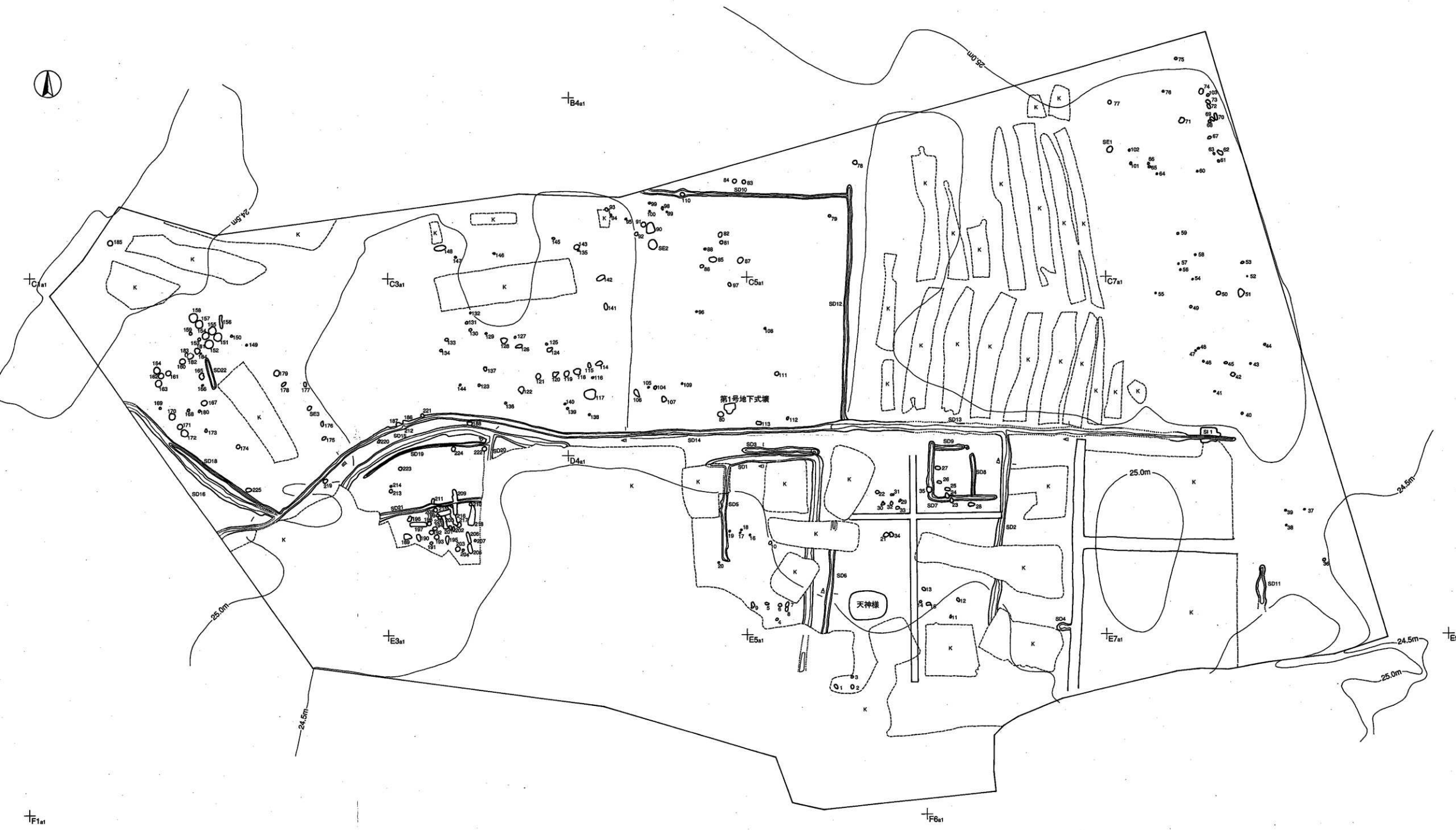
発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587

印刷 株式会社 高野高速印刷
〒310-0035 水戸市東原2-8-1
TEL 029-231-0989

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第196集

西平塚梨ノ木遺跡遺構全体図



茨城県教育財団文化財調査報告第196集 付図
西平塚梨ノ木遺跡遺構全体図

